

# 1 授業科目について

## 1-1 教育課程

本学部では教育課程（カリキュラム）を、次のように構成しています。

【教育課程（カリキュラム）】

共通教育科目	人間科学科目
	英語科目
専門教育科目	専門基礎科目
	専門科目
教職に関する科目	

## 1-2 科目の区分（必修・選択・自由科目）

科目には次の区分があり、「授業科目配当表」に記載されています。

区分	区分の詳細	内容
必修科目	必修科目	単位修得が義務づけられている科目。進級や卒業するためには必ず単位を修得しなければならない。
	択一必修科目	指定の数科目のうちから1科目のみ必ず選択し、選択したものが必修となる科目。
	コース（プログラム）必修科目	選択したコースにより、必修となる科目。当該科目の有無はコースにより異なる。
選択科目	選択科目	各人の意思により選択する科目。単位修得の義務はないが、卒業所要単位数に算入される科目。但し、各学科・コースの「進級条件」「卒業条件」「履修モデル」等に留意すること。
	他学部他学科科目（選択科目） ※（任意に選択し修得した科目）	他学部他学科科目を履修・修得し、上記の「選択科目」同様の扱いとする科目。
自由科目	自由科目	修得すれば単位は修得できるが、進級・卒業所要単位数には算入されない科目。
	他学部他学科科目（自由科目） ※	他学部他学科科目を履修・修得し、上記の「自由科目」同様の扱いとする科目。

※ 他学部他学科科目については、「3-4 特別な履修登録」を参照してください。

### 1-3 配当学年

科目は、カリキュラム上、体系的に関連づけられており、学習が効果的に行われるよう開講される学年が予め定められています。従って、自分の学年に配当された科目を履修することになります(再履修の場合は、自身の学年より下級学年に配当された授業科目も可能)。そのため、上級学年に配当された科目は特別の場合を除いて履修できません(学年配当の原則)。

### 1-4 配当期

科目の開講される期間(配当期)により、次のように区分されます。

通年科目	1年間 30週にわたって授業がおこなわれる科目
前期科目	前期半年間 15週にわたって授業がおこなわれる科目
後期科目	後期半年間 15週にわたって授業がおこなわれる科目
集中講義科目	夏季・冬季など休業中などの一定期間に、連続集中して授業がおこなわれる科目。集中講義科目の時間割は講義開始の数週間前に掲示で発表される。

### 1-5 単位数

大学では、各科目の形態に応じて単位数が定められています。単位とは科目の学修量を数値化したものです。授業科目の1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

各科目の単位は、その授業方法・授業時間外に必要な学修を考慮し、次の基準により計算します。

科目種別	基準
講義及び演習	15時間の授業をもって1単位
実験・実習・製図及び実技	30時間の授業をもって1単位
卒業研究等	学習の成果を考慮して単位数を定めています。

※必要な学修時間の計算例

(h = 時間)

科目形態		科目の単位数	必要時間①	授業時間数②	授業時間外に必要な学修時間(週あたり)
講義・演習	半期科目 15hで1単位	2単位	45h×2単位 =90h	15h×2単位 =30h	(①90h-②30h)÷15週 ⇒4h
	半期科目 15hで1単位	3単位	45h×3単位 =135h	15h×3単位 =45h	(①135h-②45h)÷15週 ⇒6h
実験・実習等	通年科目 30hで1単位	3単位	45h×3単位 =135h	30h×3単位 =90h	(①135h-②90h)÷30週 ⇒1.5h

1単位は45時間の学修を標準としていますので、授業以外の時間は、自ら授業時間外の学修として行うことになります。

## 1-6 毎週授業時間数（コマ）

授業科目配当表上の時限（コマ）のことです。1とあれば1週間に1時限（1コマ=90分）開講していることを意味します。

## 1-7 担当教員

担当教員には常勤教員と非常勤教員がいます。非常勤教員は、本学専属の教員ではありませんが、原則として担当科目がある日・時限は大学にいる事になっています。授業担当教員に用事がある場合は、直接講義教室へ行くか、講師室（2号館3階）まで来てください。また、シラバスに連絡先が記載されている場合があります。質問したい事項が発生した場合、講義終了後に質問するなど、早めに確認を取るよう心がけてください。

# 2 授業について

## 2-1 学年と学期

授業は一定の期間継続して行われます。期間には、「学年」と「学期」という概念があります。

学 年 : 4月1日から翌年3月31日

学年は次の2学期に分けられます。

前学期 : 4月1日から9月上旬まで

後学期 : 9月上旬から3月31日まで

但し、必要に応じこの期間を変更することがありますので、その年の学事日程で確認してください。

また、講義日程の年間スケジュールは、毎年掲示で確認してください。講義日数を確保するため、休日・祝祭日等に講義を行う日程を設ける場合があります。

## 2-2 時限と時間

時限	1	2	3	4	5	6	7
時間	9:00 ∩ 10:30	10:40 ∩ 12:10	13:10 ∩ 14:40	14:50 ∩ 16:20	16:30 ∩ 18:00	18:10 ∩ 19:40	19:50 ∩ 21:20

※昼間学部の正課授業は1時限から5時限、夜間学部の正課授業は5時限から7時限に実施されます。通常とは異なる時限に補講が行われる場合もあります。

※他キャンパスとの遠隔講義等においては、上記とは異なる時限で講義を行うことがあります。

## 2-3 時間割

### (1) 時間割表

各科目は週単位で決められた「時間割」に従って行われます。

時間割は「UNIPA」で確認することが出来ます。操作方法は、UNIPAの説明ページを参照してください。

### (2) カリキュラム年度

入学時に配当されるカリキュラムの年度のことです（カリキュラム年度はUNIPAの【個人別情報】画面で確認できます）。

カリキュラム年度は、卒業するまで同じカリキュラム年度です。

カリキュラムとは、授業科目配当表や進級条件・卒業条件など、卒業までの条件の組合せのことです。同一学科・学年であっても、カリキュラム年度によっては配当されている科目や単位数、必修・選択区分などが異なる場合があります。

2013年度に入学した学生のカリキュラム : 2013年度カリキュラム

2013年度に3年次編入した学生のカリキュラム : 2011年度カリキュラム

### (3) 時間割の変更

曜日・時限などに変更が生じた場合、掲示により周知します。

### (4) 注意事項

科目を受ける際は、授業科目配当表、時間割表などをよく確認のうえ、間違いのないように受講するようにしてください。

## 2-4 クラス編成と授業ガイダンス

同一科目で複数のクラスがある場合、科目によっては受講クラスが指定される（クラス分けされる）ことがあります。特に英語科目や演習科目は複数のクラスが生じますので、受講するクラス（担当教員や曜日など）を間違えないようシラバスや掲示、ガイダンスでの指示を確認してください。

実験・実習・実技・英語科目等の科目においては、授業開始第一週に授業ガイダンスがおこなわれる場合があります。日程等はシラバスや掲示により周知します。授業ガイダンスに出席しないと、クラス編成の都合上、履修に支障が出る場合もありますので必ず出席してください。

## 2-5 休講

次の場合、休講とします。休講は原則掲示にて周知します。

- (1) 授業科目担当教員にやむを得ない理由が生じた場合
- (2) 休講の掲示がなく、授業開始時間から30分を経過しても授業科目担当教員がやむを得

ない理由で講義を開始できない場合（自然休講と呼びます）

(3) 大学の行事を行う場合

(4) 交通ストライキや自然災害等、不足の事態が生じた場合（第 1 章 1-6 参照）

## 2-6 補講

授業回数が不足した場合や学習の到達目標を達成していないと教員が判断した場合など、必要に応じて補講を行うことがあります。補講の有無は、原則掲示にて周知します。

## 2-7 欠席について

忌引、病気・怪我、課外活動などで、やむをえず欠席した場合は、事務部窓口または事務部ホームページで欠席届の用紙を入手し、必要事項を記入の上、診断書等の欠席を証明できる書類を添えて授業科目担当教員に提出・説明してください（欠席日数が 1 週間を超える場合は、事務部教務担当窓口へ提出）。

但し、公欠制度はありません。届出に対して大学（授業科目担当教員等）が判断をします。

正当な理由がなく、無届けで、引き続き 3 カ月以上欠席した者は除籍対象者となります。また、授業への出席状態が悪く、履修を途中で放棄したと担当教員が判断したときは、成績が「-」（放棄）となります。

## 2-8 出欠調査

科目の出欠調査には学生証が必要です（第 1 章 1-4 参照）。

## 2-9 期限厳守について

履修登録、レポートなどの提出物には、必ず期限が定められています。期限を守らないと申請や評価を受けられないこととなりますので、指定事項（期限や提出場所など）は必ず厳守してください。

2 号館 3 階のレポート BOX に関しては、提出期限に撤去した後の提出は受付出来ませんので注意してください。

## 2-10 授業アンケートについて

授業をより良くするために「授業アンケート」を実施し、結果を公開しています。授業内容の向上につながるため、率直な意見を記載してください。但し、一時的な感情やいい加減な考えではなく、科目での様子を出来るだけ正しく伝えるようにしてください。

アンケート結果は、事務部の web サイト等で公開する予定です。

## 2-11 e-Campus 科目について

東京電機大学の4学部（工学部・未来科学部・理工学部・情報環境学部）では、平成18年度より、多彩な勉学機会を提供するため、各キャンパスをネットワークシステムで結び、遠隔講義を行っています。遠隔講義を行う科目は別途掲示で確認してください（開講しない場合もあります）。

※他学部他学科に担当されている科目の場合、他学部他学科科目の履修登録が必要です。

※授業時間は原則、実施科目のキャンパスの時間帯で行われます。

授業時間帯はキャンパス毎に異なります。時間割の重複は出来ませんので、履修する際は実施の時間帯に注意して申請してください。

## 2-12 学習サポートセンター

大学での学修において、基礎学力は非常に重要です。学習サポートセンターでは、基礎学力の向上を支援しています。上級学年で学習する科目の理解力（応用力）を高めると共に、高校時代に学習した内容の理解に不安がある場合にも対応します。

**教員構成** 本学専任・非常勤教員のほかに、学習サポートセンター指導員らの少数による講義や質問の対応、指導を行います。

**対象科目** 数学・物理・英語

**実施形態** ①個別指導による学習支援  
②グループ学習（ミニ講義や補習などの時間割制による講義形式等）。

※数学科目のミニ講義は、講義内容が授業に合わせ2週程度で変更となります（詳細は掲示周知します）。

※英語科目のミニ講義については、掲示または英語系列のホームページを参照してください。

**実施場所** 学習サポートセンター 4号館 3F 40313室

## 3 履修計画・履修登録

### 3-1 履修計画

大学では、4年間の学習について「主体性」が求められます。次の点を考慮して履修計画を立ててください。

#### (1) 必要な資料を確認する

資料名	内容
学生要覧（本誌）	「各学科の理念」「履修モデル」「授業科目配当表」「進級条件」「卒業条件」などの各種の決まりごとを確認する
時間割表（UNIPA）	科目の開講曜日・時限などを確認する
シラバス（UNIPA）	科目の内容、教科書、クラス分け・ガイダンス情報などを確認する
掲示（UNIPA）	履修登録期間・クラス分け・ガイダンス情報などを確認する

#### (2) 注意点

- ①卒業までの履修計画を立て、各年度の履修登録を行う。
- ②履修モデル・授業科目配当表・シラバス・初回の授業ガイダンスを参考に履修登録する。
- ③必修（コース必修など）科目も、自分自身で履修登録する。
- ④上級年次になってから単位不足に陥ることのないよう、余裕をもって履修登録をする（年間履修登録単位数の上限（24単位/半期）に注意する）。
- ⑤進級条件、卒業条件を満たせるよう、毎年単位修得状況に注意して履修登録する。
- ⑥年間履修登録上限があることに注意する。

### 3-2 履修制限

4年間を通し計画的に履修し、内容を充分理解することを目的とし、履修制限が設定されています。履修する際は、この履修制限を超えて履修登録をすることはできませんので、十分注意し、しっかり履修計画を立てるようにしてください。

- ①履修登録時に履修できる単位数は半期に24単位までです。  
但し、自由科目、集中講義科目は履修制限には含みません。
- ②優秀な成績で各学期を終了した学生には、上限を超えて4単位の履修ができる制度があります。

履修制限を超えて履修登録を許可する評価基準

- |  |
|--|
| <p>次の両基準を満たす者に対して、半期4単位まで上限単位数を超えての履修を認める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前学期に20単位以上の履修登録を行い90%以上の単位を修得していること。</li> <li>(2) GPAが3.1以上であること。</li> </ol> |
|--|

### 3-3 履修登録

履修登録は、前期に前期科目・通年科目・集中講義科目などを、後期に後期科目・集中講義科目などを、それぞれ登録します。

履修登録の種類は、主に「UNIPA で申請する科目」「指定用紙で申請する科目」などがありますが、具体的な方法や履修登録期間などの詳細は掲示にて連絡します。必ず期間内に自分で履修登録をするようにしてください。

#### 【履修登録上の主な注意点】

重複受講の禁止	履修する科目が授業時間割上重複するときは、そのうちの1科目しか履修できません。必修科目（コース（プログラム）必修科目）、選択科目を問わず、重複が発生した場合はどちらか1つの科目しか登録をすることができません。例外については、「3-4 特別な履修登録」を参照。
変更の禁止	指定した履修の登録・修正期間後の授業科目の履修変更は認められません。
無届科目	履修登録されていない科目の受講・受験は認められません。学力考査の受験資格の付与や単位の認定もされません。
履修放棄	履修登録した科目を授業期間中に放棄（長期欠席）したり、学力考査を受験しないときは、成績評価は放棄の「-」となる場合があります。

### 3-4 特別な履修登録

#### (1) UNIPA で申請するもの

履修の種類と対象	注意点など
他学部他学科科目履修 【全体共通】	<p>自分の所属学科に配当されていない科目を一定の要件を満たすことにより、履修することができます（他学部他学科科目履修制度）。</p> <p><b>【以下の基準を満たす場合、申請可能】</b></p> <p>①自分の所属学科に配当がない（内容の類似する科目もない）</p> <p>②自分の学年次以下に配当されている科目（上級学年次科目は不可）</p> <p>③当該科目の人数に余裕がある場合</p> <p>但し、①工学部第一部（全学科）の科目は申請できません。</p> <p>②工学部第二部は、電気電子工学科（NE）、機械工学科（NM）、情報通信工学科（NC）の科目のみ申請可能です。</p> <p>他学部他学科科目の履修を希望するときは、指定する履修登録期間に履修申請を行ってください。申請した科目の許可・不許可については、後日掲示で発表します。</p>
学科ごとの注意事項① 【電気電子工学科（電気電子システムコース・EJ）】	<p>EJでは、JABEE（日本技術者教育認定機構）プログラムを採用しています。そのため、他の学科・コースとは本制度の運用が異なります。</p> <p><b>【進級・卒業判定（JABEE 修了判定）時の取扱い】</b></p> <p>他学部他学科科目にて履修した科目は、必修科目・選択科目・自由科目のいずれも、「自由科目」として取り扱う。履修し、修得しても卒業・進級判定時には、判定の対象科目にならない。</p>

<p>学科ごとの注意事項② 【EJ以外の学科・コース】</p>	<p>【他学部他学科科目にて修得した科目の取扱い】 ①必修科目・選択科目は任意に選択し修得した科目（選択科目）として取り扱う。 ②自由科目は、他学部他学科科目の自由科目として取り扱う。 【区分別卒業所要単位数への算入について】 ①他の大学等における授業科目の履修により本大学における授業科目の履修とみなし、修得できる単位（学則）と合わせて60単位をこえることはできません。 ②「区分別卒業所要単位数」では、「任意に選択し修得した科目」に算入されます。従って、12単位を超えた単位数は、卒業に必要な単位数に加算されません。</p>
<p>学科ごとの注意事項③ 【機械工学科（機械工学コース・EK）（先端システムコース・EF）】</p>	<p>機械工学科では、学科内他コース生の受講が許可されている科目があります。履修者に余裕がある場合、他コース科目を他コース履修することができます。希望者は、手続き期間内に手続きを行ってください。機械工学科の授業科目配当表のコース選択欄を参照してください。</p>
<p>教職課程科目</p>	<p>教職課程を履修したいときは、履修登録期間に、登録となります。（詳細は第4章教職課程を参照してください）。 1年次前期は履修できません。</p>

## (2) 専用紙で申請するもの

履修の種類と対象	注意点など
<p>重複履修許可願</p>	<p>履修を希望する科目が、授業時間割上、同曜日の同時限に2科目以上重複している場合、その一方のみ、履修が許可されます（重複受講の禁止）。しかし、例外として重複履修が認められる場合があり、あらかじめ周知されます。希望者は指定の専用紙にて履修申請する必要があります。</p>
<p>東京理工系大学による学術と教育の交流に関する協定に基づく、学生交流（単位互換）のための履修願</p>	<p>東京理工系大学とは、本学、芝浦工業大学、東京都市大学、工学院大学を指します。この四大学間で、平成11年4月より、学生交流（単位互換）の履修制度が実施されています。履修できる科目、履修方法、単位の認定、各判定時の科目の扱い等についての詳細は、掲示でお知らせします。</p>
<p>転学部・編入学・転学科・再入学者等の特別履修願</p>	<p>単位認定の関係上等の理由により、他の学部、学科、上級年次科目履修など、通常外の履修を希望する時は、この申請方法を利用することができます。左記の専用紙に所定の事項を記入し、事前に担当教員の承認印を得た上で、用紙の提出をしてください。提出締切後、工学部・未来科学部事務部で一括して学科長の承認を受けます。許可・不許可については後日掲示により知らせます。</p>
<p>前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願</p>	<p>卒業延期者（3月末時点）が前期末卒業を希望する場合、通年科目を前年度授業に出席し、試験を受け不合格の場合、必修科目・選択科目を問わずこの願を提出し、受理されることにより前期末に評価してもらえることになります。左記の専用紙に必要事項を明記し、事前に担当教員の承認印を得た上で、工学部・未来科学部事務部へ提出してください。提出締切後、工学部・未来科学部事務部で一括して学科長の承認を受けます。なお詳細は「10.前期末卒業」の欄を参照してください。</p>

※履修登録の方法・申請時期等の詳細や修正点などについては、掲示にて周知します。  
 ※「特別な履修登録」の申請を行う場合には、科目担当教員に予め相談してください。

### 3-5 大学院への進学意思のない学生の本学大学院工学研究科修士課程科目の先取履修制度

(本履修制度は、本学大学院工学研究科の進学希望者のために実施する大学院科目の先取り履修制度とは異なります。同制度については別途、掲示周知します。)

現在、本学大学院工学研究科への進学希望者を対象に「大学院科目の先取り履修制度」を実施しています。同制度では、修得した科目の単位は、大学院工学研究科へ進学した場合、大学院科目として単位認定がされます。

本制度に対し、平成21年度より、本学部教育のアドバンス教育の一環として、学習意欲はあるが大学院に進学意思(希望)のない優秀な4年次生(早期卒業者等を含む)を対象に、本学大学院工学研究科修士課程科目の履修機会を設けることとなりました。

履修を希望する学生は、「大学院への進学意思のない学生の本学大学院工学研究科修士課程科目の先取履修願」用紙に所定の事項を記入し、事前に「自分の所属する学科の学科長印」・「自分の履修を希望する専攻の専攻主任印」を得た上で、工学部・未来科学部事務部へ提出してください。許可・不許可については、後日掲示により知らせます。

#### (1) 本制度の対象者

成績優秀である4年次生(早期卒業及び大学院工学研究科への飛び級希望者の3年次生を含む)成績優秀である者とは、下記の基準の両方を満たした者です。

- ①半期に20単位以上の履修登録を行い90%以上の単位を修得していること。
- ②GPAが3.1以上であること。

※上記の基準は、「3-2 履修制限を超えて履修登録を許可する評価基準」と同じです。

なお、上記の成績基準は、履修対象によって下記の時期の成績をもって判定します。

対象学生	前期履修時の成績判定時期	後期履修時の成績判定時期
4年次生	3年次後期	
3年次生の早期卒業希望者、飛び級希望者	2年次後期	3年次前期

#### (2) 単位の認定時期

本制度で修得した科目は、卒業所要単位数には、算入されません。

但し、本制度利用者で、単位修得者が本学大学院工学研究科へ進学した場合の単位認定については、「大学院進学希望者に対する大学院科目の先取り履修」制度に準じて運用(大学院科目として単位認定)します。

### (3) 成績の通知並びに修了書

本制度で履修科目が合格となった場合は、当該科目の「修了書（科目名・単位数・評価を記載）」を1度のみ発行します。

※成績通知・成績証明書には、在学中・卒業後も修了科目について記載されません。

(4) 本履修制度による履修は、大学院工学研究科の履修状況により、履修科目数の制限、各科目への履修者数制限等が設けられる場合があります。その場合は、掲示により知らせます。

## 4 学力考査

科目の履修状況を評価し、単位を認定するための材料として学力考査がおこなわれます。学力考査は、筆記学力考査（学期末・中間・毎回の授業内など）・レポート・平常点の評価などの方法でおこなわれます。いずれの形態で学力考査を実施するかについては、「学力考査実施要領」にて案内します。「学力考査実施要領」は掲示にて周知します。

### 4-1 学力考査

#### (1) 受験資格

次の4つの条件を原則すべて満たしていなければなりません。但し、休学期間中は学力考査を受けることはできません。

- ①その科目の履修登録を完了していること。
- ②その科目に常時出席していること。
- ③その学期までの学費を納入していること。
- ④通年科目で、前・後期の2回学力考査がおこなわれる科目について後期学力考査を受験するには、前期学力考査を受験していること。

#### (2) 実施方法等

科目担当教員の指定する方法・日程・時限で実施します。

#### (3) 学力考査受験上の心得

##### ①学生証の呈示

教室では、必ず学生証を常に机の上、通路側の見やすい場所に呈示してください。万一日携帯していないときは、2号館3階にある自動証明書発行機より証明書〔仮受験票〕を出力してください。（仮受験票の発行を受ける場合は有料（1,000円）となります。）

##### ②遅刻・退出

学力考査時の遅刻に関する取扱いについては、別途案内する掲示を確認してください。

学力考査時の退出については、開始 40 分後から終了 10 分前まで可能です。

③学籍番号・氏名の記入

答案用紙に学年・学科・学籍番号・氏名を必ず記入してください。記入のない答案は無効となります。

④監督者の指示

学力考査実施時間中は、監督者が一切の権限を有します。監督者の指示に従わない者、または私語など受験態度不良の者には退室を命じることがあります。また、学力考査時間中、筆記用具・消ゴムなどの貸借は監督者の許可がなければできません。

⑤不正行為

カンニングなど不正行為をした場合、退学・停学・訓告などの懲戒処分になるとともに、当該科目の属する学力考査の全科目が無効となります。

「当該科目の属する」の範囲には、学力考査実施要領発表後に実施されるレポート科目等も含まれます。

⑥受験棄権

時間途中で受験を中止する場合でも、答案用紙に学年・学科・学籍番号・氏名を記入して提出してください（受験した科目の答案用紙は、持ち帰る事はできません。誤って持ち帰った場合でも、不正行為とみなされる場合がありますので注意してください。）。

**(4) 学力考査予備日**

通常の授業実施時限とは異なる日程で、学力考査を実施する日を学力考査予備日と呼びます。同日程で学力考査を実施する科目は、学力考査実施要領にて発表します。

①受験資格のほか、各種の条件ならびに遵守すべき事項は、授業中に実施する学力考査に準じます。但し、科目担当教員が指定する条件等がある場合は、それに従ってください。

②時間割・試験室などについては、掲示で発表します。学力考査予備日に実施する学力考査は、通常の授業時間とは異なりますので注意してください。

[学力考査予備日の時限と時間] (各 80 分)

時限	1	2	3	4	5	6	7
時間	9:30 } 10:50	11:10 } 12:30	13:30 } 14:50	15:10 } 16:30	16:45 } 18:05	18:20 } 19:40	19:55 } 21:15

昼間学部は、原則 1 時限から 4 時限に学力考査を実施します。

なお、学生の履修科目によっては、5 時限以降に学力考査を実施する場合があります。

**4-2 追試験**

急病など真に止むを得ない理由で学力考査を欠席した場合は、追試験がおこなわれることがあります。追試験を実施するかどうかは科目担当教員に任されており、追試験願を提出しても追試験が実施されるとは限りません。できる限り指定された日の学力考査を受けてください。追試験を希望する場合は所定の手続きが必要になります。

### (1) 不正行為

カンニングなど不正行為をした場合、退学・停学・訓告などの懲戒処分になるとともに、当該学力考査の属する追試験及び学力考査（予備日実施も含む）の全科目が無効となります。

「当該学力考査の属する」の範囲には、学力考査実施要領発表後に実施される学力考査科目・レポート科目なども含まれます。

### (2) 追試験願の提出が認められる理由

次の4つの場合のみ、証明書類を添付して追試験願を提出することができます。

- ①本人の病気のため受験が全く不可能な場合。（医師の診断書）
- ②2親等以内の親族の危篤・死亡の場合。（証明する書類）
- ③交通機関停止等により登校が不可能な場合。（遅延証明書）
- ④その他、本人の責任でない真に止むを得ない事情がある場合。（理由書）

学力考査時間割の見間違い、寝坊などは止むを得ない理由とは認められません。

但し、就職試験のため学力考査を受けられなかった4年次生は、学科長に相談してください。

### (3) 手続き

学力考査の受験資格（前記）を満たしており、上記の追試験願を提出できる理由に該当する者は、事務部が指定する提出期日までに、上記書面を添えた欠席届（追試験願）を工学部・未来科学部事務部へ提出してください。追試験の受付スケジュール・追試験の実施の有無、いつ実施するか等は後日、掲示でお知らせします。申請した科目の追試験が実施されることになった場合は、受験手続き（受験1科目につき500円必要）を行います。

## 4-3 中間考査

学期の途中で担当教員が随時おこなう学力考査です。

### (1) 不正行為

カンニングなど不正行為をした場合、退学・停学・訓告などの懲戒処分になるとともに、当該科目が無効となります。

## 4-4 提出物の期限

科目担当教員や事務部から学生に提出物（履修届・レポート・製図、その他）を求めるときは、必ず「期限（締切日と締切時間）」と「提出場所（方法）」が定められます。期限を過ぎた提出物は一切受けません。必ず、締切日・締切時間・提出場所（方法）を確認し、その条件を遵守してください。

実験レポートは実験室が管理していますので、それらに関する問い合わせ等は直接実験室に行ってください。

# 5 成 績

担当教員が採点し、60点以上の評点を得たとき合格となり、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを大学側から見て「単位認定」、学生側から見て「単位修得（取得）」といいます。

単位認定は、原則としてその授業科目の履修が終わる配当期の終了時点に行われます。一旦単位を修得（取得）した授業科目は、履修の終了が認定されたことになるので、再度の履修をすることはできません。

## 5-1 成績評価基準

成績評価基準		
評価	評点	参考
S	90点～100点	講義・実験・実習内容を十分に理解し、自在に応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
A	80点～89点	講義・実験・実習内容を理解し、応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
B	70点～79点	講義・実験・実習内容を知識として身につけ、部分的ではあるが応用できる水準にある。しかし、より高度な内容に進むためには、自己学習をしておくことが望ましい。
C	60点～69点	シラバスに記載されている達成目標の最低水準に達している。しかし、習得した知識を応用し、より高度な内容に進むためには、十分な自己学習を要する。
D	60点未満	シラバスに記載の達成目標を満たしていない。
—	放棄	学習を放棄したとみなされた。

## 5-2 評点と評価

評点は、下記の評価におきかえられ UNIPA の成績通知画面・成績証明書などに表されます。なお、評点の通知は行ないません。

評価		評点・摘要
成績証明書用	成績通知用	
S	S	90～100点 80～89点 70～79点 60～69点 } 合格（単位修得）
A	A	
B	B	
C	C	
R	D	0～59点 不合格（単位未修得）
	—	放棄（下記の注を参照）
	*	履修中（現在履修中である状態）
	R	認定（他大学・短期大学等の単位を認定した場合）

（注）通常の授業への出席状態が悪く担当教員が履修を途中で放棄したと判断した場合などは、「—」放棄となる。

### 5-3 成績の通知

前年度末までの成績の通知は3月に、前期末までの成績通知は9月に行います。学生アドバイザーや各学科長から成績・履修相談を同時に行う場合もあります。

なお、学期の途中で担当教員から採点報告があっても、個々の発表は行いません。

### 5-4 成績順位

総合的成績評価において、GPA（Grade Point Average）を基本とします。

$$GPA = (\text{単位加重 GP の総和}) \div (\text{履修登録単位の総和})$$

※単位加重 GP の総和＝

(S 評価の単位数) × 4 + (A 評価の単位数) × 3 + (B 評価の単位数) × 2 + (C 評価の単位数) × 1

※単位加重 GP (Grade Point) とは、取得した各科目の評価 (S・A・B・C・D) に下記の各科目の評価を指数化するグレートポイントを掛けた数値です。

ポイント	評価	評点 (100 点法)
4	S	90 ~ 100
3	A	80 ~ 89
2	B	70 ~ 79
1	C	60 ~ 69
0	D	0 ~ 59
	—	放 棄

- ・ 総和には自由科目を含まない。
- ・ 履修登録単位の総和に、履修中の単位は含まれない。
- ・ 履修登録単位の総和は、成績通知に記載の科目を対象とする。
- ・ GPA の値は小数点第 4 位を四捨五入した値となります。
- ・ 用途

学部内における判定等（早期卒業、履修上限を超えての履修登録を許可する評価基準、大学院への進学意思のない学生の本学大学院工学研究科修士課程科目の先取り履修の許可基準、その他）

### 5-5 単位認定

#### (1) 入学前に修得した単位の認定

##### ①編入学・転学部・転学科の場合

該当者が、大学・短期大学・高等専門学校の専攻科で修得した成績を、本学部で修得したものとして認定の対象科目とすることができ（高等専門学校での科目は、原則として4・5年次の科目に限る）、単位は進級・卒業条件へ算入することができます。

単位を本学部における単位として認定を希望するときは、掲示により指定された期日までに、単位認定願を工学部・未来科学部事務部（教務担当）へ提出してください。

その中から、本学部所定の基準に対応する科目について単位認定をおこないます。単位認定科目の評価は、編入学者に対して「R」、転学部・転学科者に対しては「S・A・B・C」で表示されます。但し、認定「R」で表示された科目は、教育職員免許状を取得しようとするとき「教科に関する科目」の単位には20単位までしか算入されません（何ら教職課程認定を受けていない大学・短期大学から編入学した学生の場合）ので、認定を希望しない者はその旨を工学部・未来科学部事務部（教務担当）へ申し出てください。

## ②新入学者の既取得単位の認定

大学または短期大学において本学部に入學する前に修得した授業科目の単位（科目等履修生によって修得した単位を含む）のうち教授会が教育上有益と認めたものは、入學した後の本学部において修得したのものとして（編入学・転入学等の場合を除く）60単位を限度に単位を認定されることがあります。

既取得単位認定希望者は、掲示により案内する指定期日までに、前に在學した大学または短期大学の成績証明書及び当該科目の講義要目（シラバス）を添付して工学部・未来科学部事務部（教務担当）へ願い出てください。

# 6 再履修

履修した授業科目の単位を修得できなかったときは、2年次以上からその科目の履修をもう一度ははじめからやり直す（再履修）ことになります。

その際、次の点に留意してください。

- ①必修科目（択一必修科目、コース（プログラム）必修科目を含む）の単位を修得できなかったときは、必ず再履修する必要があります。
- ②選択科目の単位を修得できなかったときに再履修するかどうかは、各自の意志にまかされますが、卒業に必要な単位数は確保するよう再履修科目を決めてください。
- ③再履修科目の配当条件に変更があったときは、別途、周知される再履修方法などを参照し、単位未修得科目に対応する授業科目を誤りなく再履修してください。
- ④再履修する授業科目の単位数が変更になった場合でも、再履修の結果合格したときは自分のカリキュラム年度配当科目の単位数が与えられます。
- ⑤再履修科目の担当教員が前年度と変更になった場合は、当該年度担当教員のもとで再履修してください。
- ⑥再履修科目と自分の学年次配当科目とが授業時間割上重複した場合、両科目を履修することはできません（重複受講の禁止）。（本章 3-3 履修登録を参照）
- ⑦再履修科目の履修登録・学力考査などについては、通常の履修科目の場合と同じです。

## 7 卒業までの学修

大学は単位制ではありますが、特に理工学系大学では、学問の性質上基礎から応用へと積み重ねて履修していくことが必要です。そこで本学部では、授業科目を順序だてて履修できるように各年次に配当し、各学年次生がその中から履修できるようになっています。

したがって、下級年次で成績不良のまま上級年次へ進み専門的科目を履修する必要が生じた場合、教育上不都合が生じます。そこで本学部では、学年末までの単位修得状況を考慮して上級年次へ進級するための条件を定めており、この条件を満たさないときは、もとの学年次に留年するという進級制度をとっています。

自己の進路と学習の進め方については、学科で実施する履修のガイダンスに必ず出席し、その内容を十分理解して学習に励み間違いなく所期の目標を達成するようにしてください。また、高等学校までと異なり、自己責任と自己管理が一層重要になってきていることを自覚し学修してください。

## 8 進級と留年

原則以下の条件を満たした場合、上級学年次へ進学することになります。

- ①必要な学費及びその他の費用を納入している事。
- ②同一学年に合算して12ヶ月以上在学すること。ただし、休学期間は在学期間に含まない。
- ③上級年次に進学するための条件がある場合(本章8-1「1年次から2年次への進級条件」、8-3「3年次から4年次への進級条件」を参照)は、その条件を満たしていること。

※3月の判定時に休学中の者も、①、②、③を満たしていれば上級年次へ進級する事になります。

### 8-1 1年次から2年次への進級条件

#### (全学科共通)

必要な学費及びその他の費用を納入しており、休学期間を除き1年次生に合算して12ヶ月以上在学している者(判定時に休学中の者も含む)を対象に1年次学年末に進級判定が行われます。

1年次から2年次に進級するためには、1年次学年末において、次の条件を満たす必要があります。

#### (1) 進級条件

1年次終了時に、自由科目を除く修得単位数の合計が24単位以上であり、学科の定める科目の修得条件を満たしていることを条件とする。

【学科の定める科目の修得条件（要修得必修科目数）】

学科名	EE 科		ES 科	EM 科		EC 科
	EJ コース	EH コース		EK コース	EF コース	
1 年次までの必修 配当科目数	5 科目	4 科目	12 科目	6 科目	5 科目	8 科目
要修得必修科目数	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	5 科目 <sup>※1</sup>

※1. ワークショップ I を含む、5 科目

上記の進級条件を満たした者は、2 年次に進級します。

3 年次から 4 年次への進級条件や卒業所要単位数も考慮して、履修登録を行い、十分な単位数を修得するようにしてください。

(2) 留年

進級判定の結果、1 年次に留年となった場合、再び 1 年次をやり直すこととなります。修得できなかった科目について再履修を行い、年度末に再度進級判定を受けることとなります。

なお、休学による場合を除き、同一学年に通算して 4 年の在学をこえてなお進級できない者は、除籍となります。(学則)

8-2 2 年次から 3 年次への進級

2 年次から 3 年次への成績による進級条件はありません。(ただし、前記の学籍及び学費の条件を満たす必要があります。)

成績による進級条件がない場合であっても、後記の 3 年次から 4 年次への進級条件を満たすよう履修計画をたて、確実に学修を進める必要があります。

8-3 3 年次から 4 年次への進級条件

(全学科共通)

必要な学費及びその他の費用を納入しており、休学期間を除き 3 年次生に合算して 12 ヶ月以上在学している者（判定時に休学中の者も含む）を対象に 3 年次学年末に進級判定が行なわれます。

3 年次から 4 年次に進級するためには、3 年次学年末において、次の進級条件を満たす必要があります。

(1) 進級条件

自由科目を除く修得単位数の合計が 104 単位（人間科学科目 10 単位、英語科目 4 単位を含む）以上であり、学科の定める科目の修得条件を満たしていることを条件とする。

【学科の定める科目の修得条件（要修得必修科目数）】

学科名	EE 科		ES 科	EM 科		EC 科
	EJ コース	EH コース		EK コース	EF コース	
3年次までの必修 配当科目数	16 科目	13 科目	24 科目	21 科目	21 科目	15 科目
要修得必修科目数	13 科目	11 科目	19 科目	18 科目	18 科目	13 科目

※ EJ コースにおける JABEE プログラム必修科目の「技術者倫理」は、「要修得必修科目」には加算されません。

(2) 留年

進級判定の結果、3年次に留年となった場合、再び3年次をやり直すこととなります。修得できなかった科目について再履修を行い、年度末に再度進級判定を受けることとなります。

なお、休学による場合を除き、同一学年に通算して4年の在学をこえてなお進級できない者は、除籍となります。(学則)

## 9 卒 業

休学期間を除き4年次に合算して12ヶ月以上在籍している者で、年度末判定時に休学していない4年次生を対象に卒業判定が行われます。本学部を卒業するためには、次のすべての条件をみとすことが必要です。

### 9-1 卒業条件

- ①卒業するために必要な単位数（卒業所要単位数）を修得していること。
- ②自分の所属する学科に配当されている必修科目（コース（プログラム）必修科目がある学科はコース（プログラム）必修も含む）の単位の全部を修得していること。
- ③合計4年以上（8年以内）在学していること。
- ④卒業までに必要な学費及びその他の費用の全額を納入していること。
- ⑤卒業判定時に休学していないこと。

### 9-2 区分別卒業所要単位数

- (1) 電気電子工学科（電子光情報コース）、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科用  
【区分別卒業所要単位数】

区分		単位数	備考
共通教育科目	人間科学科目	16 単位	(技術者教養科目2単位を含む)
	英語科目	6 単位	
専門教育科目	基礎・共通科目 専門科目	90 単位	
任意に選択し修得した科目		12 単位	
合計		124 単位	

※自由科目は上記「卒業所要単位」に含まれません。

※卒業所要単位の中に、「任意に選択し修得した科目」を設けてあります。この科目区分は、「学生の個性に併せて選択した科目」が選択できる様に位置づけています。

※大学院科目の先取り履修制度で修得した科目は、卒業所要単位数に算入されません。

※人間科学科目は、「所要単位」のうち、技術者教養科目2単位を含む。

(択一必修。複数科目を修得した場合は、人間科学科目区分の卒業所要単位として認定されます。)

※任意に選択し修得した科目とは、以下の科目を指します。

- ①「任意に選択し修得した科目」区分以外の上記の表の区分において、卒業所要単位を超えて修得した単位
- ②「任意に選択し修得した科目」となる単位  
他学部他学科履修で修得した単位（自由科目を除く）  
東京理工系大学による学生交流（単位互換）の履修制度を利用し、修得した単位

## (2) 電気電子工学科（電気電子システムコース）

### 【区分別卒業所要単位数】

区分		区分単位数	学修教育目標に対応する科目区分	必要最低単位数
共通教育科目	人間科学科目	16 単位	(A) 人間科学科目	16 単位
	英語科目	6 単位	(B) 技術者教養 (技術者倫理)	2 単位
専門教育科目	基礎・共通科目 専門科目	102 単位 (C,D1,D2,E,Fの 科目の合計単位数 が102単位必要)	(C) 工学基礎科目	32 単位
			(D1) 専門科目	33 単位
			(D2) 実験科目	8 単位
			(E) 設計・開発・研究科目	8 単位
			(F) コミュニケーション科目	5 単位
任意に選択し修得した科目		—		
合計		124 単位		

※「自由科目」は、「卒業所要単位」には含まれません。

※ 1年次入学生と編入学生では、適用されるプログラムが異なります。

①電気電子専修プログラム (JABEE プログラム：1年次に正規入学した学生)

①の対象者は、上表の「学修教育目標に対応する科目区分」の「必要最低単位数」を満たす必要があります。

②電気電子総合プログラム (総合プログラム：企業委託学生、2年次以上への編入学生など)

②の電気電子総合プログラム (編入生等対象) は、「区分単位数」条件を満たせばよい。

詳細は、「工学部履修モデル電気電子工学科プログラム案内」を参照してください。

### 9-3 卒業研究着手条件

進級条件を満足し4年次生に進級した学生は卒業研究の着手条件を満たしたことになります (8進級参照)。

### 9-4 卒業見込証明書

進級条件を満たし、4年次に進んだ学生には卒業見込証明書を発行します。

卒業見込証明書は4月上旬より発行します。

卒業見込証明書発行日については、掲示にて周知します。

※休学中は卒業見込証明書が発行されません。必要に応じ、学科に相談してください。

### 9-5 学位記

本学部を卒業すると、学士 (工学) の学位が授与され、卒業時に学位記を授与します。本学の場合、学位記が卒業証書を兼ねますので、いわゆる卒業証書と称するものは授与しません。一度発行した学位記は再発行しませんので、大切に保管してください。

### 9-6 3年間での卒業 (早期卒業)

大学院への進学を前提としているきわめて成績優秀な学生は、以下の条件により3年間の在学期間で卒業することが出来ます。希望する場合は、学科長に相談してください。

3年間の在学期間で卒業するための条件は以下の通りです。

①本人が3年生終了時に卒業することを希望していること

②在学期間が3年の学生であること

③卒業要件および成績基準

- ・3年次までに各学科に配当された必修科目の単位をすべて3年次終了時まで修得しているとともに、各学科が定めた早期卒業のための卒業要件を満たし、卒業所要単位124単位以上を修得済みであること。

- ・GPAが3.4以上であること。

・上記の対象となる科目・単位は、工学部で履修し、工学部の授業を受講し、評価された科目・単位のみとする。

④学科長および学部長が早期卒業に相応しいと判断したもの

### ●各学科が特に定めた早期卒業のための卒業要件

- (1) 2年次終了時に85単位以上を修得し、GPAの数値が3.4以上あり、早期卒業を希望する学生は、3年次において卒業研究を履修し、その単位を修得しなければならない。卒業研究の履修にあたっては、学科長の指示に従うものとする。ただし、対象となる科目・単位は、工学部で履修し、工学部の授業を受講し、評価された科目・単位のみとする。
- (2) 3年前期終了時に、学科長が卒業研究の履修の継続を認めた者。
- (3) 4年次配当の卒業研究以外の必修科目の単位修得については、次のとおりとする。  
 EE科 (EJ・EH) …全て修得すること。  
 EC科 …修得しなくとも良い。  
 ES科、EM科 (EK・EF) は、卒業研究以外の必修科目は配当されていません。

### ●その他

各学科において、3年前期終了時に学科長が卒業研究の継続を認められないと判断した場合は、卒業研究の履修を中止するか、引き続き履修を認めた場合でも単位認定は4年次に行う。

## 10 前期末卒業（卒業条件を満たさず卒業延期になった者対象）

### 10-1 前期末卒業の条件

- (1) 4年次に合算して12か月以上在学するものを対象とする。ただし、12か月以上の在学には、休学期間を在学期間に含まない。
- (2) 前記の条件を満たした者を対象として前期末卒業判定を実施する。判定時に休学中の者は対象としない。卒業所要単位数など所定の卒業条件を満たしたときは、前期末卒業（9月10日付）となる。

（所定の卒業条件）

卒業条件は、入学した年度に学生に提示している卒業条件を適用する。

### 10-2 前期末卒業の希望確認（意志確認）の手続きについて

- (1) 年度末卒業判定が行なわれ卒業延期者が確定した3月の成績通知書配布時に、学科長または学生アドバイザーから卒業延期者に対し「前期末卒業制度」が説明されます。卒業延期者は、UNIPAの【個人情報】に表示されている連絡先に誤りがないか確認してください（後日、前期末卒業に関する連絡を学科から行う場合に使用するため）。

(2) 9月上旬の成績通知書配布時に、「前期末卒業の対象者（前記の卒業条件を満たした者）に対し、前期末卒業の希望確認（意志確認）を行います。卒業時期の確認手続きは以下によります。

**（卒業時期の確認手続） 時期：9月上旬**

対象学生への卒業時期の意志確認	前期成績が確定後、前期末卒業判定が実施され、判定結果が学科長へ通知されます。その結果を受け、学科長又は学生アドバイザーが、前期末卒業条件を満たした対象者全員に、前期末卒業（9月10日付卒業）とするか、または、翌年3月卒業とするかの卒業時期の希望を確認します。
卒業時期の確定	<p>対象学生への意志確認</p> <p>①対象学生の意志確認ができ学生が前期末卒業を希望する場合、または、対象学生の意志確認が出来ない（連絡がつかない）場合 ⇒9月10日付で卒業となります。</p> <p>②対象学生より「翌年3月に卒業したい」旨の申請があった場合、定められた期間内に「翌年3月に卒業を希望する」旨の申請書（対象学生及び保証人の署名・捺印が必要）を学部長宛に提出する事により、翌年3月に卒業時期が変更となります。</p> <p>※後期の在籍となることから学費の支払い義務が発生します。保証人と充分相談し、希望を決定してください。</p>

**10-3 前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願**

前年度卒業延期者が通年科目を再履修して前期末卒業を希望する場合は、その科目の履修届を提出するだけでなく、「前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願」を必ず提出しなければなりません。（用紙は工学部・未来科学部事務部にあります。）

**（手続き）**

卒業延期者のうち、通年科目を前年度までに少なくとも1年間履修し単位未修得の者で、前期末卒業の可能性があると本人が判断し前期末卒業を希望する者は、前期履修登録期間に「前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願」を1科目につき1部ずつ提出してください。

①通年科目であれば必修科目・選択科目を問いません。

②後期科目はこの手続きの対象外です。

※修得できた科目の単位は、前期末卒業できた場合、又、前期末卒業できずに翌年3月に卒業する場合にも、修得科目として、卒業所要単位数に算入されます。

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 全学科 授業科目配当表

工)人科(2013) - 1

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	
共通教育科目	スキル・キャリア フレッシュマンセミナー	1	2	選	1	半期(前)	1年次前期のみ開講	
	文章表現法	1	2	選	1後234	半期(後)		
	東京電機大学で学ぶ	1	1	選	1	半期(前)	導入科目 e-Campus科目	
	コミュニケーション 教養演習(発表の技法)	前1後1	2	選	34	通年	平成25年度開講せず 集中講義(演習形式)	
	スポーツ・健康	健康と生活	1	2	選	全	半期(前/後)	
		スポーツコンセプト	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。
		トリムスポーツⅠ	2	2	選	1	半期(前)	
		トリムスポーツⅡ	2	2	選	1	半期(後)	
		スポーツ科学演習A	1	2	選	234	半期(前)	平成25年度開講せず
		スポーツ科学演習B	1	2	選	234	半期(後)	平成25年度開講せず
		アウトドアスポーツA	1	1	選	全	半期(後)	夏期集中講義
		アウトドアスポーツB	1	1	選	全	半期(後)	夏期集中講義
	アウトドアスポーツC	1	1	選	全	半期(後)	冬期集中講義	
	人間理解	哲学入門	1	2	選	全	半期(前/後)	
		記号論理学	1	2	選	全	半期(前/後)	
		倫理学入門	1	2	選	全	半期(前/後)	
		自己心理学セミナー	1	2	選	全	半期(前/後)	
		人間関係の心理	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。
		認知心理学	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。
		歴史理解の基礎	1	2	選	全	半期(前/後)	
	芸術	1	2	選	全	半期(前/後)	(1)音楽,(2)美術 時間割上履修学年に制限がかかることがある。	
	社会理解	法律入門	1	2	選	全	半期(前/後)	
		日本国憲法	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。
		国際政治の基礎	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。
		日本経済入門	1	2	選	全	半期(前/後)	月曜2時限e-Campus科目
		企業と経営	1	2	選	全	半期(前/後)	
		企業と社会	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。
		グローバル社会の市民論	1	2	選	全	半期(前/後)	平成25年度後期開講せず 時間割上履修学年に制限がかかることがある。
		大学と社会	1	2	選	全	半期(後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。
	介護福祉論	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。	
異文化理解	アメリカ理解	1	2	選	全	半期(前)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。	
	ヨーロッパ理解	1	2	選	全	半期(前/後)		
	アジア理解	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。	
	ドイツ語Ⅰ	1	2	選	全	半期(前)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。	
	ドイツ語Ⅱ	1	2	選	全	半期(後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。	
	中国語Ⅰ	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。	
	中国語Ⅱ	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。	
	比較文化論	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。	
武道と日本人のこころ	1	2	選	全	半期(前/後)	時間割上履修学年に制限がかかることがある。		

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 全学科 授業科目配当表

工)人科(2013) - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考
共通教育科目 技術者教養	技術者倫理	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	失敗学	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	情報倫理	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	製造物責任法	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	情報化社会と知的財産権	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	特許法	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	情報とネットワークの経済社会	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	科学技術と企業経営	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	情報化社会とコミュニケーション	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	コンピュータと人間社会	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	情報と職業	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	地球環境論	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	科学技術と現代社会	1	2	選	234	半期(前/後)	平成25年度開講せず
	科学の社会史	1	2	選	234	半期(前)	平成25年度開講せず
技術の社会史	1	2	選	234	半期(後)	平成25年度開講せず	

### 技術者教養科目

よき技術者が備えるべき知識や教養を内容とした教養科目。  
技術者倫理、関連法規、環境及び人間社会と科学技術の関わり、技術者をめぐる社会科学分野などで構成される。

技術者教養科目の中から選択して最小限1科目(2単位)を履修すること。

7科目区分のバランスよい履修をこころがけること。

2013(平成25)年度カリキュラム  
工学部 全学科 授業科目配当表

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配 当 期	備 考	
共通 教育 科目	英語 科目	総合英語 I	1	1	選	1	半期(前)	総合英語 I と口語英語 I は同時に履修登録しなければならない。 習熟度別・複数学科の合併。
		口語英語 I	1	1	選	1	半期(前)	
		総合英語 II	1	1	選	1	半期(後)	総合英語 II と口語英語 II は同時に履修登録しなければならない。 習熟度別・複数学科の合併。
		口語英語 II	1	1	選	1	半期(後)	
		総合英語 III	1	1	選	2	半期(前)	習熟度別
		総合英語 IV	1	1	選	2	半期(後)	習熟度別
		英語基礎演習 I	1	1	選	2	半期(前)	履修条件あり
		英語基礎演習 II	1	1	選	2	半期(後)	履修条件あり
		英語演習 A	1	1	選	2	半期(前)	
		英語演習 B	1	1	選	2	半期(後)	
		英語演習 C	1	1	選	3	半期(前)	
		英語演習 D	1	1	選	3	半期(後)	
		英語演習 E	1	1	選	4	半期(前)	
		英語演習 F	1	1	選	4	半期(後)	
		海外英語短期研修	随時	2	選	全	半期(前/後)	集中講義
		インターネットで学ぶ英語 I	随時	1	選	34	半期(前)	Web活用クラス
		インターネットで学ぶ英語 II	随時	1	選	34	半期(後)	Web活用クラス

履修上の制限について

1. 「総合英語 I」と「口語英語 I」は同時に履修しなければならない。(再履修者を除く)
2. 「総合英語 II」と「口語英語 II」は同時に履修しなければならない。(再履修者を除く)
3. 「英語基礎演習 I」は取得済み英語科目2単位以下、「英語基礎演習 II」は取得済み英語科目3単位以下である学生が対象。

平成25(2013)年度カリキュラム 工学部 電気電子工学科  
電気電子システムコース 授業科目配当表

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	教職
基礎 共通 科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ	コードなし
	微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		112解析
	線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う	コードなし
	線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		110代数
	物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		コードなし
	化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		コードなし
	物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		コードなし
	化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		コードなし
	物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)		コードなし
	物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)		コードなし
	化学実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)		コードなし
	化学実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)		コードなし
	物理学基礎演習	1	2	選	1	半期(前)	夏季集中講義	コードなし
	ベクトル解析	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
	フーリエ解析	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	112解析
	微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
	数値解析学	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
	複素解析学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
専門 教育 科目	インターンシップ	随時	2	選	34	通年	平成25年度開講せず	コードなし
	ワークショップ	2	2	選	1	半期(後)		コードなし
	電気電子工学リテラシー	1	1	必	1	半期(前)		コードなし
	電磁気学および演習Ⅰ	2	4	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電磁気学および演習Ⅱ	2	4	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電磁気学Ⅲ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	回路基礎	1	2	必	1	半期(前)		160工業
	回路理論および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(後)		160工業
	回路理論および演習Ⅱ	2	4	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	回路解析基礎	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	過渡現象	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電子回路Ⅰ	1	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電子回路Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	応用電子回路	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電子回路設計	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	134情⑤
	電気電子計測	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	131情②
	制御工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	131情②
	制御工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	131情②
	量子物理学	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電気材料	1	2	選	34	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電子デバイスⅠ	1	2	選	34	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電子デバイスⅡ	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	選	1	半期(前)		基礎要件
	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		131情②
	プログラミング	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	131情②
	電気機器Ⅰ	1	2	選	34	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電気機器Ⅱ	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	パワーエレクトロニクス	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	高電圧工学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電力系統工学Ⅰ	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
電力系統工学Ⅱ	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
発電工学	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
環境とエネルギー	1	2	選	4	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	

平成25(2013)年度カリキュラム 工学部 電気電子工学科  
 電気電子システムコース 授業科目配当表

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配 当 期	備 考	教 職
専門 科目	集積回路	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	デジタル回路	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	132情③
	デジタル信号処理	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	132情③
	デジタルシステム	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	132情③
	スマート信号処理	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	132情③
	医用電子工学	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	情報理論	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	133情④
	高周波回路	1	2	選	34	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	システム工学	1	2	選	34	半期(前)	平成25年度開講せず	132情③
	電気法規	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電機設計および電気製図	1	2	選	4	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電気電子工学基礎実験Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電気電子工学基礎実験Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電気電子工学実験Ⅰ	2	2	必	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電気電子工学実験Ⅱ	2	2	必	3	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電気電子キャリア総合演習	1	1	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	コートなし
	コンピュータプレゼンテーション	1	2	必	3	半期(後)	平成25年度開講せず	134情⑤
	技術英語Ⅰ	1	1	必	3	半期(前)	平成25年度開講せず	コートなし
	技術英語Ⅱ	1	1	必	3	半期(後)	平成25年度開講せず	コートなし
	卒業研究	1	6	必	4	通年	平成25年度開講せず	コートなし
プロジェクトワークショップ	1	1	必	4	通年	平成25年度開講せず	コートなし	
教職 関連 科目	職業指導	1	4	自	3	通年	平成25年度開講せず	160工業
	コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	平成25年度開講せず	131情②
	情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	平成25年度開講せず	132情③
	情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	平成25年度開講せず	133情④
	マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	平成25年度開講せず	134情⑤
	線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず	110代数
	数式処理	1	2	自	2	半期(前)	夏期集中講義/平成25年度開講せず	114コンピュ
	代数学入門	1	2	自	1	半期(後)		110代数
	解析学	1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
	幾何学	1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず	111幾何
	代数学	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	110代数
	微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)	平成25年度開講せず	111幾何
	数学	微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず
複素解析学Ⅱ		1	2	自	3	半期(後)	平成25年度開講せず	112解析
確率・統計Ⅰ		1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず	113確統
確率・統計Ⅱ		1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	113確統

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 電気電子工学科 電子光情報コース 授業科目配当表

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	教職
基礎 共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ3コマ	コードなし
	微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		112解析
	線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う	コードなし
	線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		110代数
	物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		コードなし
	化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		コードなし
	物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		コードなし
	化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		コードなし
	物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)		コードなし
	物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)		コードなし
	化学実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)		コードなし
	化学実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)		コードなし
	物理学基礎演習	1	2	選	1	半期(前)	夏季集中講義	コードなし
	ベクトル解析	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
	フーリエ解析	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	112解析
	微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
	数値解析学	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
	複素解析学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
専門 教育科目	インターンシップ	随時	2	選	34	通年	平成25年度開講せず	コードなし
	ワークショップⅠ	2	2	選	1	半期(前)		コードなし
	ワークショップⅡ	2	2	選	1	半期(後)		コードなし
	電子光情報工学入門	1	2	選	1	半期(前)		コードなし
	電気回路基礎	1	2	必	1	半期(後)		160工業
	電磁気学Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電磁気学Ⅱ	1	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電磁気学Ⅲ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電気回路Ⅰ	2	4	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電気回路Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	回路解析	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	過渡現象	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電子回路Ⅰ	1	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電子回路Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	論理回路設計	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	132情③
	論理システム設計	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	132情③
	電子計測	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	131情②
	自動制御	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	131情②
	半導体物理基礎	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	量子物理学	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	電子・光材料	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電子デバイスⅠ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	電子デバイスⅡ	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		基礎要件
	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		131情②
	プログラミングⅠ	1	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	131情②
	プログラミングⅡ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	131情②
	ホームエレクトロニクス	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
	幾何光学	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
	マイクロプロセッサ応用	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	132情③
コンピュータアーキテクチャ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	131情②	
信号処理	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	132情③	
応用信号処理	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	132情③	
電気電子機器	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 電気電子工学科 電子光情報コース 授業科目配当表

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配 当 期	備 考	教 職	
専門 科目	プラズマ工学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
	レーザー工学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
	ロボット工学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	132情③	
	光エレクトロニクス	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
	情報理論	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	133情④	
	高周波回路	1	2	選	34	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
	通信機器	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
	音響工学	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	134情⑤	
	電磁波工学	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
	センサーエレクトロニクス	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
	光通信工学	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
	光情報処理	1	2	選	4	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
	非線形光学	1	2	選	4	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
	電気電子工学基礎実験	2	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
	電子光情報工学基礎実験	2	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
	電子光情報工学実験Ⅰ	2	2	必	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
	電子光情報工学実験Ⅱ	2	2	必	3	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
	プレゼンテーション	前1後1	4	必	4	通年	平成25年度開講せず	134情⑤	
	技術英語	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし	
	ビジネス英語	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし	
	卒業研究	前3後3	6	必	4	通年	平成25年度開講せず	コードなし	
	通信法規	1	2	自	34	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし	
	品質管理	1	2	自	34	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし	
	教職 関連 科目	職業指導	1	4	自	3	通年	平成25年度開講せず	160工業
		コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	平成25年度開講せず	131情②
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	平成25年度開講せず	132情③
情報通信ネットワークの基礎および演習		1	2	自	234	半期(後)	平成25年度開講せず	133情④	
マルチメディア表現技術の基礎および演習		1	2	自	234	半期(後)	平成25年度開講せず	134情⑤	
線形代数学Ⅲ		1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず	110代数	
数式処理		1	2	自	2	半期(前)	夏期集中講義/平成25年度開講せず	114コンピ	
代数学入門		1	2	自	1	半期(後)		110代数	
解析学		1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析	
幾何学		1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず	111幾何	
代数学		1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	110代数	
微分幾何学		1	2	自	3	半期(後)	平成25年度開講せず	111幾何	
数学		微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	112解析
		複素解析学Ⅱ	1	2	自	3	半期(後)	平成25年度開講せず	112解析
	確率・統計Ⅰ	1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず	113確統	
	確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	113確統	

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 環境化学科 授業科目配当表

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	教職
基礎 共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		コードなし
	微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		112解析
	線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)		コードなし
	線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		110代数
	物理学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)		120物理
	化学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)		122化学
	コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		基礎要件
	物理学Ⅱ	1	2	必	1	半期(後)		120物理
	化学Ⅱ	1	2	必	1	半期(後)		122化学
	物理実験Ⅰ	1	1	必	1	半期(前)		121物実
	物理実験Ⅱ	1	1	必	1	半期(後)		121物実
	化学実験Ⅰ	1	1	必	1	半期(前)		123化実
	化学実験Ⅱ	1	1	必	1	半期(後)		123化実
	コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		114コンピュ
	物理学基礎演習	1	2	選	1	半期(前)	夏季集中講義	コードなし
	ベクトル解析	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
	フーリエ解析	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	112解析
	微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
	数値解析学	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
	複素解析学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
専門 教育科目	電磁気学Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	120物理
	電磁気学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	120物理
	環境科学	1	2	必	1	半期(後)		コードなし
	ワークショップ	2	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
	環境化学総合演習Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
	環境化学総合演習Ⅱ	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし
	インターンシップ	随時	2	選	34	通年	平成25年度開講せず	コードなし
	卒業研究	前3後3	6	必	4	通年	平成25年度開講せず	コードなし
環境 化学 基礎	有機化学Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	122化学
	有機化学Ⅱ	1	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	122化学
	物理化学Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	122化学
	物理化学Ⅱ	1	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	122化学
	生物化学	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	124生物
	無機化学	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	122化学
	電気化学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
	コンピューター化学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	122化学
	機器分析	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
	物性物理学	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	120物理
	化学演習Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		122化学
	化学演習Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		122化学
	物理学演習	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	120物理
	物理化学演習	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	122化学
	有機化学演習Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	122化学
	有機化学演習Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	122化学
	化学工学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
	光化学	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	122化学
科学論文読解	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし	
科学情報表現法	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	122化学	
地学	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	126地学	

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 環境化学科 授業科目配当表

ES (2013) - 2

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配 当 期	備 考	教 職	
専門 教育 科目	環境 化学	環境と生物	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし
		環境分析学	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし
		環境統計学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし
		環境無機化学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし
		環境適応物質学	1	2	選	34	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
	生物 工学	生物学	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	124生物
		分子生物学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
		微生物学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	124生物
		応用微生物学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし
		生物物理学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
		生物有機化学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし
	機能 性 高 分 子	有機合成化学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
		高分子材料工学	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	122化学
		高分子物性学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	122化学
		高分子合成学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし
		生体高分子工学	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし
		高分子錯体化学	1	2	選	34	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし
	環 境 材 料 工 学	固体物性	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	120物理
		無機材料工学	1	2	選	34	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
		薄膜工学	1	2	選	34	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし
		半導体材料工学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし
	実 験 科 目	無機・分析化学実験	1	1	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	123化実
		物理化学実験	1	1	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	121物実
		有機化学実験	1	1	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	123化実
		生物化学実験	1	1	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	121物実
		応用有機化学実験	1	1	必	3	半期(前)	平成25年度開講せず	123化実
		応用生物化学実験	1	1	必	3	半期(前)	平成25年度開講せず	125生実
		応用無機・分析化学実験	1	1	必	3	半期(後)	平成25年度開講せず	121物実
		応用物理化学実験	1	1	必	3	半期(後)	平成25年度開講せず	121物実
	教 職 関 連 科 目	線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず	110代数
数式処理		1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず	114コンピユ	
代数学入門		1	2	自	1	半期(後)		110代数	
解析学		1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析	
幾何学		1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず	111幾何	
代数学		1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	110代数	
微分幾何学		1	2	自	3	半期(後)	平成25年度開講せず	111幾何	
地球環境科学		1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず	126地学	
地学実験		2	2	自	4	半期(前)	平成25年度開講せず	127地実	
数 学		微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	112解析
	複素解析学Ⅱ	1	2	自	3	半期(後)	平成25年度開講せず	112解析	
	確率・統計Ⅰ	1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず	113確統	
	確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	113確統	

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 機械工学科 機械工学コース授業科目配当表

区分	開講コース	科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	コース選択	教職	
専門基礎科目	基礎共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ 3コマ		コードなし	
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)			112解析	
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う			コードなし
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)				110代数
		微分方程式Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず			112解析
		微分方程式Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず			112解析
		ベクトルおよびテンソル	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず			112解析
		フーリエ解析	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず			112解析
		複素解析学Ⅰ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず			112解析
		複素解析学Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず			112解析
		数値解析学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず			112解析
		確率・統計Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず			113確統
		確率・統計Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず			113確統
		物理学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)				コードなし
		物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)				コードなし
		物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)				コードなし
		物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)				コードなし
		化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)				コードなし
		化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)				コードなし
		化学実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)				コードなし
化学実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)				コードなし		
専門基礎	コンピュータ	K コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		●	基礎要件	
		K コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		●	114コンピュ	
		K コンピュータプログラミングⅠ	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	131情②	
		K コンピュータプログラミングⅡ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	131情②	
	専門基礎	K 機械系入門	1	2	必	1	半期(前)		●	160工業	
		K ワークショップⅠ	2	2	選	1	半期(前)		●	コードなし	
		K ワークショップⅡ	2	2	選	1	半期(後)		●	コードなし	
		K 工業力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	1	半期(前)		●	160工業	
		K 工業力学Ⅱおよび演習	1.5	3	選	1	半期(後)		●	160工業	
		K エンジンの科学	1	2	選	1	半期(前)		△	160工業	
F 機械のしくみ	1	2	選	1	半期(前)		○	160工業			
K メカトロニクス概論	1	2	選	1	半期(後)		●	131情②			
専門教育科目	材料	K 材料力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業	
		K 材料力学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業	
		K 材料工学	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業	
		K 弾塑性学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	○	160工業	
		K 材料強度学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	○	160工業	
		K 先端材料	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	△	160工業	
		K 応用物性学	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	△	160工業	
		K バイオメカニクス	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	△	160工業	
	加工	K 数値固体力学	1	2	選	4	半期(後)	平成25年度開講せず	△	134情⑤	
		K 加工学基礎	1	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業	
		K 機械加工学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	○	160工業	
		K 加工の力学および演習	1.5	3	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	○	160工業	
		K トライボロジー概論	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	○	160工業	
		流体	K 流体の力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
			K 流体の力学Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	○	160工業
K 粘性流体力学	1		2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	○	160工業		
K 流体機械	1		2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	○	160工業		
K 数値熱流体力学	1		2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	△	134情⑤		

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 機械工学科 機械工学コース授業科目配当表

区分	開講コース	科目名	コマ	単位	必選自	配当年	配当期	備考	コース選択	教職
熱	K	工業熱力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
	K	工業熱力学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
	K	伝熱工学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	○	160工業
	K	熱機関	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	○	160工業
	K	エネルギー変換工学	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	△	160工業
振動・制御	K	振動学および演習	1.5	3	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
	K	応用振動学	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
	K	機械・構造物のダイナミクス	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	△	160工業
	K	制御工学Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	131情②
	K	制御工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	131情②
	K	ロボット工学	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	△	132情③
	K	計測工学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	131情②
	K	電気工学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
	K	電子工学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
設計	K	機械要素設計および演習	1.5	3	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
	K	計算機援用設計	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	○	134情⑤
実験実習	K	機械工学実験実習Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
	K	機械工学実験実習Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
	K	機械工学実験実習Ⅲ	2	2	必	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
	K	機械工学実験実習Ⅳ	2	2	必	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
製図	K	機械設計製図Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	134情⑤
	K	機械設計製図Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	132情③
	K	機械設計製図Ⅲ	2	2	必	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
その他	K	品質管理	1	2	自	4	半期(後)	平成25年度開講せず	△	コートなし
	K	機械工学輪講	1	2	必	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
	K	ワークショップⅢ	2	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	コートなし
	K	インターンシップ	随時	2	選	34	通年	平成25年度開講せず	●	コートなし
	K	卒業研究	前3後3	6	必	4	通年	平成25年度開講せず	○	コートなし
教職関連科目		職業指導	1	4	自	3	通年	平成25年度開講せず		160工業
		コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	平成25年度開講せず		131情②
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	平成25年度開講せず		132情③
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	平成25年度開講せず		133情④
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	平成25年度開講せず		134情⑤
		線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず		110代数
		数式処理	1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず 夏期集中講義		114コンピュ
		代数学入門	1	2	自	1	半期(後)			110代数
		代数学	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず		110代数
		解析学	1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず		112解析
		幾何学	1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず		111幾何
	微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)	平成25年度開講せず		111幾何	

コース選択の記号説明

- 他コースの学生は履修不可
- 履修者に余裕があれば他コース生履修可
- △ コースにかかわらず履修可

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 機械工学科 先端機械コース 授業科目配当表

EF(2013) - 1

区分	開講コース	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配 当 期	備考	コース選択	教職
専門基礎科目	基礎共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ 3コマ		コードなし
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)			112解析
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)	初歩・基礎クラスのみ補習を4回行う		コードなし
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)			110代数
		微分方程式Ⅰ	1	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず		112解析
		微分方程式Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず		112解析
		ベクトルおよびテンソル	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず		112解析
		フーリエ解析	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず		112解析
		複素解析学Ⅰ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず		112解析
		複素解析学Ⅱ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず		112解析
		数値解析学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず		112解析
		確率・統計Ⅰ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず		113確統
		確率・統計Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず		113確統
		物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)			コードなし
		物理学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)			コードなし
		物理実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)			コードなし
		物理実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)			コードなし
		物理学基礎演習	1	2	選	1	半期(前)	夏季集中講義		コードなし
		化学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)			コードなし
	化学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)			コードなし	
化学実験Ⅰ	1	1	選	1	半期(前)			コードなし		
化学実験Ⅱ	1	1	選	1	半期(後)			コードなし		
専門基礎	コンピュータ	F コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		●	基礎要件
		F コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		●	114コンピュ
		F コンピュータプログラミングⅠ	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	131情②
		F コンピュータプログラミングⅡ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	131情②
	F 機械系入門	1	2	必	1	半期(前)		●	160工業	
	F ワークショップⅠ	2	2	選	1	半期(前)		●	コードなし	
	F ワークショップⅡ	2	2	選	1	半期(後)		●	コードなし	
	F 工業力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	1	半期(前)		●	160工業	
F 工業力学Ⅱおよび演習	1.5	3	選	1	半期(後)		●	160工業		
K エンジンの科学	1	2	選	1	半期(前)		△	160工業		
F 機械のしくみ	1	2	選	1	半期(前)		○	160工業		
F メカトロニクス概論	1	2	選	1	半期(後)		●	131情②		
専門科目	情報	F 情報処理工学	1	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	131情②
		F 計算機援用設計	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	○	134情⑤
	材料	F 材料力学Ⅰおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 材料力学Ⅱ	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 材料工学	1	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
F 機械材料学	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	○	160工業		
専門科目	加工	F 加工学基礎	1	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 塑性加工法	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	○	160工業
		F 先端精密機械加工	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 電気加工法	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	△	160工業
	流体	F 流体の力学Ⅰおよび演習	1.5	3	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
	熱	F 熱工学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 応用熱工学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	コードなし

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 機械工学科 先端機械コース 授業科目配当表

区分	開講コース	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配 当 期	備 考	コ ー ス 選 択	教 職
専門科目	制御・計測・電気	F 制御工学Ⅰ	1	2	必	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	131情②
		F 制御工学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	131情②
		F ロボット工学	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	△	132情③
		F 精密測定法	1	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 計測工学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず 夏期集中講義	●	131情②
		F 電気工学	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 先端自動車工学	1	2	選	3	半期	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 電子工学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 先端医用工学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 応用電子工学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 集積回路工学	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	○	コードなし
		F メカトロニクス	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	○	コードなし
		光学	F 応用光学	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	○
	F 光学機器		1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	○	160工業
	設計	F 機構学	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	○	160工業
		F 機械力学	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 機械設計学Ⅰ	1	2	必	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 機械設計学Ⅱ	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 人間工学	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	△	160工業
		F データベース活用設計	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	●	132情③
		F 応用機械力学	1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	○	コードなし
	実験実習	F 機械工学実験実習Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 機械工学実験実習Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 先端機械実験実習Ⅰ	2	2	必	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 先端機械実験実習Ⅱ	2	2	必	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
	製図	F 機械設計製図Ⅰ	2	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	●	134情⑤
		F 機械設計製図Ⅱ	2	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	●	132情③
		F 先端機械設計製図Ⅰ	2	2	必	3	半期(前)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F 先端機械設計製図Ⅱ	2	2	必	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	134情⑤
	その他	F 品質管理	1	2	自	34	半期(後)	平成25年度開講せず 3,4年同時開講	△	コードなし
		F アドバンスワークショップ	2	4	自	234	通年	平成25年度開講せず	△	コードなし
		F 機械工学輪講	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	●	160工業
		F インターンシップ	随時	2	選	34	通年	平成25年度開講せず	●	コードなし
F 卒業研究		前3後3	6	必	4	通年	平成25年度開講せず	○	コードなし	
専門教育科目	教職関連科目	職業指導	1	4	自	3	通年	平成25年度開講せず		160工業
		コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	平成25年度開講せず		131情②
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	平成25年度開講せず		132情③
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	平成25年度開講せず		133情④
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	平成25年度開講せず		134情⑤
		線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず		110代数
		数式処理	1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず 夏期集中講義		114コンピュ
		代数学入門	1	2	自	1	半期(後)			110代数
		代数学	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず		110代数
		解析学	1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず		112解析
		幾何学	1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず		111幾何
微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)	平成25年度開講せず		111幾何		

コース選択の記号説明

- 他コースの学生は履修不可
- 履修者に余裕があれば他コース生履修可
- △ コースにかかわらず履修可

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 情報通信工学科 授業科目配当表

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	教職	
専門教育科目	基礎 共通科目	微分積分学および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		コードなし
		微分積分学および演習Ⅱ	2	4	選	1	半期(後)		112解析
		線形代数学Ⅰ	1	2	必	1	半期(前)		コードなし
		線形代数学Ⅱ	1	2	選	1	半期(後)		110代数
		物理学Ⅰ	1	2	選	1	半期(前)		コードなし
		物理学基礎演習	1	2	選	1	半期(前)	夏季集中講義	コードなし
		コンピュータ基礎および演習Ⅰ	2	4	必	1	半期(前)		基礎要件
		ワークショップⅠ	2	2	必	1	半期(前)		コードなし
		インターンシップ	随時	2	選	34	通年	平成25年度開講せず	コードなし
		情報通信メディア基礎	1	2	必	1	半期(前)		133情④
		複素数基礎	1	2	選	1	半期(前)		コードなし
		微分方程式Ⅰ	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
		情報通信数学A(離散数学)	1	2	選	1	半期(後)		114コンピュ
		情報通信数学B(確率論と情報理論)	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	113確統
		情報通信数学C(代数と符号理論)	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	110代数
		電気回路基礎および演習	1.5	3	必	1	半期(後)		160工業
		電磁気学基礎および演習	1.5	3	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
		電子回路基礎	1	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
		信号理論	1	2	選	1	半期(後)		160工業
		コンピュータ基礎および演習Ⅱ	2	4	必	1	半期(後)		114コンピュ
		通信法規	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
	ビジネス論	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし	
	グループスタディⅠ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	コードなし	
	グループスタディⅡ	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	コードなし	
	卒業研究	前3後3	6	必	4	通年	平成25年度開講せず	コードなし	
	実験等	ワークショップⅡ	2	2	必	1	半期(後)		コードなし
		情報通信基礎実験	2	4	必	2	通年	平成25年度開講せず	160工業
		情報通信工学実験	2	4	必	3	通年	平成25年度開講せず	131情②
		情報通信プロジェクト	前2後1	3	必	4	通年	平成25年度開講せず	132情③
	通信・ メディア 処理	電子回路応用	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
		応用物理学	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
		情報通信デバイス	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
		電磁気学応用	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
高周波の基礎		1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
ワイヤレスシステム工学		1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
通信理論基礎		1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
通信システム		1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
通信ネットワーク		1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
光通信工学		1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
信号システム解析		1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
デジタル信号処理		1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
メディアと信号処理		1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業	
音声・音響情報工学		1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	134情⑤	
画像処理工学		1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	134情⑤	
マルチメディア通信工学		1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	134情⑤	
コンピュータグラフィクス		1	2	選	4	半期(前)	平成25年度開講せず	134情⑤	
計測制御工学	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業		

平成25(2013)年度カリキュラム  
工学部 情報通信工学科 授業科目配当表

区分	科目名	コマ	単位	必 選 自	配 当 年	配当期	備考	教職	
専門 教育 科目	コン ピ ユ ー タ	論理回路および論理設計	1	2	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
		デジタル回路	1	2	選	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業
		コンピュータアーキテクチャ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
		マイコン基礎および実習	2	3	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	131情②
		基礎プログラミングおよび演習	1.5	3	必	2	半期(前)	平成25年度開講せず	160工業
		データ構造とアルゴリズムⅠ	1	2	必	2	半期(後)	平成25年度開講せず	131情②
		データ構造とアルゴリズムⅡ	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	131情②
		特別プログラミング演習	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	131情②
		インターネットプログラミング	1	2	選	2	半期(前)	平成25年度開講せず	132情③
		オブジェクト指向プログラミングおよび演習	1.5	3	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	131情②
		情報ネットワーク	1	2	選	3	半期(前)	平成25年度開講せず	133情④
		ネットワークセキュリティと暗号	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	133情④
		データ解析	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	132情③
		データベース	1	2	選	3	半期(後)	平成25年度開講せず	132情③
	情報処理・通信技術基礎	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	160工業	
	教 職 関 連 科 目	職業指導	1	4	自	3	通年	平成25年度開講せず	160工業
		コンピュータ基礎および演習Ⅲ	1	2	自	234	半期(前)	平成25年度開講せず	131情②
		情報システムの基礎および演習	1	2	自	234	半期(前)	平成25年度開講せず	132情③
		情報通信ネットワークの基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	平成25年度開講せず	133情④
		マルチメディア表現技術の基礎および演習	1	2	自	234	半期(後)	平成25年度開講せず	134情⑤
		線形代数学Ⅲ	1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず	110代数
		数式処理	1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず	114コンピユ
		代数学入門	1	2	自	1	半期(後)		110代数
		解析学	1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析
		幾何学	1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず	111幾何
		代数学	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	110代数
		微分幾何学	1	2	自	3	半期(後)	平成25年度開講せず	110代数
確率・統計Ⅰ		1	2	自	2	半期(前)	平成25年度開講せず	113確統	
確率・統計Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	113確統		
複素解析学Ⅰ	1	2	自	3	半期(前)	平成25年度開講せず	112解析		
複素解析学Ⅱ	1	2	自	3	半期(後)	平成25年度開講せず	112解析		
微分方程式Ⅱ	1	2	自	2	半期(後)	平成25年度開講せず	112解析		

# 1 授業科目について

## 1-1 教育課程

本学部では教育課程（カリキュラム）を、次のように構成しています。

【教育課程（カリキュラム）】

共通教育科目	人間科学科目
	英語科目
専門教育科目	専門基礎科目
	専門科目
教職に関する科目	

## 1-2 科目の区分（必修・選択・自由科目）

科目には次の区分があり、「授業科目配当表」に記載されています。

区分	区分の詳細	内容
必修科目	必修科目	単位修得が義務づけられている科目。進級や卒業するためには必ず単位を修得しなければならない。
	択一必修科目	指定の数科目のうちから1科目のみ必ず選択し、選択したものが必修となる科目。
	コース（プログラム）必修科目	選択したコースにより、必修となる科目。当該科目の有無はコースにより異なる。
選択科目	選択科目	各人の意思により選択する科目。単位修得の義務はないが、卒業所要単位数に算入される科目。但し、各学科・コースの「進級条件」「卒業条件」「履修モデル」等に留意すること。
	他学部他学科科目（選択科目） ※（任意に選択し修得した科目）	他学部他学科科目を履修・修得し、上記の「選択科目」同様の扱いとする科目。
自由科目	自由科目	修得すれば単位は修得できるが、進級・卒業所要単位数には算入されない科目。
	他学部他学科科目（自由科目） ※	他学部他学科科目を履修・修得し、上記の「自由科目」同様の扱いとする科目。

※ 他学部他学科科目については、「3-4 特別な履修登録」を参照してください。

### 1-3 配当学年

科目は、カリキュラム上、体系的に関連づけられており、学習が効果的に行われるよう開講される学年が予め定められています。従って、自分の学年に配当された科目を履修することになります(再履修の場合は、自身の学年より下級学年に配当された授業科目も可能)。そのため、上級学年に配当された科目は特別の場合を除いて履修できません(学年配当の原則)。

### 1-4 配当期

科目の開講される期間(配当期)により、次のように区分されます。

通年科目	1年間 30週にわたって授業がおこなわれる科目
前期科目	前期半年間 15週にわたって授業がおこなわれる科目
後期科目	後期半年間 15週にわたって授業がおこなわれる科目
集中講義科目	夏季・冬季など休業中などの一定期間に、連続集中して授業がおこなわれる科目。集中講義科目の時間割は講義開始の数週間前に掲示で発表される。

### 1-5 単位数

大学では、各科目の形態に応じて単位数が定められています。単位とは科目の学修量を数値化したものです。授業科目の1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

各科目の単位は、その授業方法・授業時間外に必要な学修を考慮し、次の基準により計算します。

科目種別	基準
講義及び演習	15時間の授業をもって1単位
実験・実習・製図及び実技	30時間の授業をもって1単位
卒業研究等	学習の成果を考慮して単位数を定めています。

※必要な学修時間の計算例

(h = 時間)

科目形態		科目の単位数	必要時間①	授業時間数②	授業時間外に必要な学修時間(週あたり)
講義・演習	半期科目 15hで1単位	2単位	45h×2単位 =90h	15h×2単位 =30h	(①90h-②30h)÷15週 ⇒4h
	半期科目 15hで1単位	3単位	45h×3単位 =135h	15h×3単位 =45h	(①135h-②45h)÷15週 ⇒6h
実験・実習等	通年科目 30hで1単位	3単位	45h×3単位 =135h	30h×3単位 =90h	(①135h-②90h)÷30週 ⇒1.5h

1単位は45時間の学修を標準としていますので、授業以外の時間は、自ら授業時間外の学修として行うことになります。

## 1-6 毎週授業時間数（コマ）

授業科目配当表上の時限（コマ）のことです。1とあれば1週間に1時限（1コマ=90分）開講していることを意味します。

## 1-7 担当教員

担当教員には常勤教員と非常勤教員がいます。非常勤教員は、本学専属の教員ではありませんが、原則として担当科目がある日・時限は大学にいる事になっています。授業担当教員に用事がある場合は、直接講義教室へ行くか、講師室（2号館3階）まで来てください。また、シラバスに連絡先が記載されている場合があります。質問したい事項が発生した場合、講義終了後に質問するなど、早めに確認を取るよう心がけてください。

# 2 授業について

## 2-1 学年と学期

授業は一定の期間継続して行われます。期間には、「学年」と「学期」という概念があります。

学 年 : 4月1日から翌年3月31日

学年は次の2学期に分けられます。

前学期 : 4月1日から9月上旬まで

後学期 : 9月上旬から3月31日まで

但し、必要に応じこの期間を変更することがありますので、その年の学事日程で確認してください。

また、講義日程の年間スケジュールは、毎年掲示で確認してください。講義日数を確保するため、休日・祝祭日等に講義を行う日程を設ける場合があります。

## 2-2 時限と時間

時限	1	2	3	4	5	6	7
時間	9:00 ∩ 10:30	10:40 ∩ 12:10	13:10 ∩ 14:40	14:50 ∩ 16:20	16:30 ∩ 18:00	18:10 ∩ 19:40	19:50 ∩ 21:20

※昼間学部の正課授業は1時限から5時限、夜間学部の正課授業は5時限から7時限に実施されます。通常とは異なる時限に補講が行われる場合もあります。

※他キャンパスとの遠隔講義等においては、上記とは異なる時限で講義を行うことがあります。

## 2-3 時間割

### (1) 時間割表

各科目は週単位で決められた「時間割」に従って行われます。

時間割は「UNIPA」で確認することが出来ます。操作方法は、UNIPAの説明ページを参照してください。

### (2) カリキュラム年度

入学時に配当されるカリキュラムの年度のことです（カリキュラム年度はUNIPAの【個人別情報】画面で確認できます）。

カリキュラム年度は、卒業するまで同じカリキュラム年度です。

カリキュラムとは、授業科目配当表や進級条件・卒業条件など、卒業までの条件の組合せのことです。同一学科・学年であっても、カリキュラム年度によっては配当されている科目や単位数、必修・選択区分などが異なる場合があります。

2013年度に入学した学生のカリキュラム : 2013年度カリキュラム

2013年度に3年次編入した学生のカリキュラム : 2011年度カリキュラム

### (3) 時間割の変更

曜日・時限などに変更が生じた場合、掲示により周知します。

### (4) 注意事項

科目を受ける際は、授業科目配当表、時間割表などをよく確認のうえ、間違いのないように受講するようにしてください。

## 2-4 クラス編成と授業ガイダンス

同一科目で複数のクラスがある場合、科目によっては受講クラスが指定される（クラス分けされる）ことがあります。特に英語科目や演習科目は複数のクラスが生じますので、受講するクラス（担当教員や曜日など）を間違えないようシラバスや掲示、ガイダンスでの指示を確認してください。

実験・実習・実技・英語科目等の科目においては、授業開始第一週に授業ガイダンスがおこなわれる場合があります。日程等はシラバスや掲示により周知します。授業ガイダンスに出席しないと、クラス編成の都合上、履修に支障が出る場合もありますので必ず出席してください。

## 2-5 休講

次の場合、休講とします。休講は原則掲示にて周知します。

- (1) 授業科目担当教員にやむを得ない理由が生じた場合
- (2) 休講の掲示がなく、授業開始時間から30分を経過しても授業科目担当教員がやむを得

ない理由で講義を開始できない場合（自然休講と呼びます）

(3) 大学の行事を行う場合

(4) 交通ストライキや自然災害等、不足の事態が生じた場合（第 1 章 1-6 参照）

## 2-6 補講

授業回数が不足した場合や学習の到達目標を達成していないと教員が判断した場合など、必要に応じて補講を行うことがあります。補講の有無は、原則掲示にて周知します。

## 2-7 欠席について

忌引、病気・怪我、課外活動などで、やむをえず欠席した場合は、事務部窓口または事務部ホームページで欠席届の用紙を入手し、必要事項を記入の上、診断書等の欠席を証明できる書類を添えて授業科目担当教員に提出・説明してください（欠席日数が 1 週間を超える場合は、事務部教務担当窓口へ提出）。

但し、公欠制度はありません。届出に対して大学（授業科目担当教員等）が判断をします。

正当な理由がなく、無届けで、引き続き 3 カ月以上欠席した者は除籍対象者となります。また、授業への出席状態が悪く、履修を途中で放棄したと担当教員が判断したときは、成績が「-」（放棄）となります。

## 2-8 出欠調査

科目の出欠調査には学生証が必要です（第 1 章 1-4 参照）。

## 2-9 期限厳守について

履修登録、レポートなどの提出物には、必ず期限が定められています。期限を守らないと申請や評価を受けられないこととなりますので、指定事項（期限や提出場所など）は必ず厳守してください。

2 号館 3 階のレポート BOX に関しては、提出期限に撤去した後の提出は受付出来ませんので注意してください。

## 2-10 授業アンケートについて

授業をより良くするために「授業アンケート」を実施し、結果を公開しています。授業内容の向上につながるため、率直な意見を記載してください。但し、一時的な感情やいい加減な考えではなく、科目での様子を出来るだけ正しく伝えるようにしてください。

アンケート結果は、事務部の web サイト等で公開する予定です。

## 2-11 e-Campus 科目について

東京電機大学の4学部（工学部・未来科学部・理工学部・情報環境学部）では、平成18年度より、多彩な勉学機会を提供するため、各キャンパスをネットワークシステムで結び、遠隔講義を行っています。遠隔講義を行う科目は別途掲示で確認してください（開講しない場合もあります）。

※他学部他学科に担当されている科目の場合、他学部他学科科目の履修登録が必要です。

※授業時間は原則、実施科目のキャンパスの時間帯で行われます。

授業時間帯はキャンパス毎に異なります。時間割の重複は出来ませんので、履修する際は実施の時間帯に注意して申請してください。

## 2-12 学習サポートセンター

大学での学修において、基礎学力は非常に重要です。学習サポートセンターでは、基礎学力の向上を支援しています。上級学年で学習する科目の理解力（応用力）を高めると共に、高校時代に学習した内容の理解に不安がある場合にも対応します。

**教員構成** 本学専任・非常勤教員のほかに、学習サポートセンター指導員らの少数による講義や質問の対応、指導を行います。

**対象科目** 数学・物理・英語

**実施形態** ①個別指導による学習支援  
②グループ学習（ミニ講義や補習などの時間割制による講義形式等）。

※数学科目のミニ講義は、講義内容が授業に合わせ2週程度で変更となります（詳細は掲示周知します）。

※英語科目のミニ講義については、掲示または英語系列のホームページを参照してください。

**実施場所** 学習サポートセンター 4号館 3F 40313室

## 3 履修計画・履修登録

### 3-1 履修計画

大学では、4年間の学習について「主体性」が求められます。次の点を考慮して履修計画を立ててください。

#### (1) 必要な資料を確認する

資料名	内容
学生要覧（本誌）	「各学科の理念」「履修モデル」「授業科目配当表」「進級条件」「卒業条件」などの各種の決まりごとを確認する
時間割表（UNIPA）	科目の開講曜日・時限などを確認する
シラバス（UNIPA）	科目の内容、教科書、クラス分け・ガイダンス情報などを確認する
掲示（UNIPA）	履修登録期間・クラス分け・ガイダンス情報などを確認する

#### (2) 注意点

- ①卒業までの履修計画を立て、各年度の履修登録を行う。
- ②履修モデル・授業科目配当表・シラバス・初回の授業ガイダンスを参考に履修登録する。
- ③必修（コース必修など）科目も、自分自身で履修登録する。
- ④上級年次になってから単位不足に陥ることのないよう、余裕をもって履修登録をする（年間履修登録単位数の上限（24単位/半期）に注意する）。
- ⑤進級条件、卒業条件を満たせるよう、毎年単位修得状況に注意して履修登録する。
- ⑥年間履修登録上限があることに注意する。

### 3-2 履修制限

4年間を通し計画的に履修し、内容を充分理解することを目的とし、履修制限が設定されています。履修する際は、この履修制限を超えて履修登録をすることはできませんので、十分注意し、しっかり履修計画を立てるようにしてください。

- ①履修登録時に履修できる単位数は半期に24単位までです。  
但し、自由科目、集中講義科目は履修制限には含みません。
- ②優秀な成績で各学期を終了した学生には、上限を超えて4単位の履修ができる制度があります。

履修制限を超えて履修登録を許可する評価基準

- 次の両基準を満たす者に対して、半期4単位まで上限単位数を超えての履修を認める。
- (1) 前学期に20単位以上の履修登録を行い90%以上の単位を修得していること。
  - (2) GPAが3.1以上であること。

### 3-3 履修登録

履修登録は、前期に前期科目・通年科目・集中講義科目などを、後期に後期科目・集中講義科目などを、それぞれ登録します。

履修登録の種類は、主に「UNIPA で申請する科目」「指定用紙で申請する科目」などがありますが、具体的な方法や履修登録期間などの詳細は掲示にて連絡します。必ず期間内に自分で履修登録をするようにしてください。

#### 【履修登録上の主な注意点】

重複受講の禁止	履修する科目が授業時間割上重複するときは、そのうちの1科目しか履修できません。必修科目（コース（プログラム）必修科目）、選択科目を問わず、重複が発生した場合はどちらか1つの科目しか登録をすることができません。例外については、「3-4 特別な履修登録」を参照。
変更の禁止	指定した履修の登録・修正期間後の授業科目の履修変更は認められません。
無届科目	履修登録されていない科目の受講・受験は認められません。学力考査の受験資格の付与や単位の認定もされません。
履修放棄	履修登録した科目を授業期間中に放棄（長期欠席）したり、学力考査を受験しないときは、成績評価は放棄の「-」となる場合があります。

### 3-4 特別な履修登録

#### (1) UNIPA で申請するもの

履修の種類と対象	注意点など
他学部他学科科目履修 【全体共通】	<p>自分の所属学科に配当されていない科目を一定の要件を満たすことにより、履修することができます（他学部他学科科目履修制度）。</p> <p><b>【以下の基準を満たす場合、申請可能】</b></p> <p>①自分の所属学科に配当がない（内容の類似する科目もない）</p> <p>②自分の学年次以下に配当されている科目（上級学年次科目は不可）</p> <p>③当該科目の人数に余裕がある場合</p> <p>但し、①工学部第一部（全学科）の科目は申請できません。</p> <p>②工学部第二部は、電気電子工学科（NE）、機械工学科（NM）、情報通信工学科（NC）の科目のみ申請可能です。</p> <p>他学部他学科科目の履修を希望するときは、指定する履修登録期間に履修申請を行ってください。申請した科目の許可・不許可については、後日掲示で発表します。</p>
学科ごとの注意事項① 【電気電子工学科（電気電子システムコース・EJ）】	<p>EJでは、JABEE（日本技術者教育認定機構）プログラムを採用しています。そのため、他の学科・コースとは本制度の運用が異なります。</p> <p><b>【進級・卒業判定（JABEE 修了判定）時の取扱い】</b></p> <p>他学部他学科科目にて履修した科目は、必修科目・選択科目・自由科目のいずれも、「自由科目」として取り扱う。履修し、修得しても卒業・進級判定時には、判定の対象科目にならない。</p>

<p>学科ごとの注意事項② 【EJ以外の学科・コース】</p>	<p>【他学部他学科科目にて修得した科目の取扱い】 ①必修科目・選択科目は任意に選択し修得した科目（選択科目）として取り扱う。 ②自由科目は、他学部他学科科目の自由科目として取り扱う。 【区分別卒業所要単位数への算入について】 ①他の大学等における授業科目の履修により本大学における授業科目の履修とみなし、修得できる単位（学則）と合わせて60単位をこえることはできません。 ②「区分別卒業所要単位数」では、「任意に選択し修得した科目」に算入されます。従って、12単位を超えた単位数は、卒業に必要な単位数に加算されません。</p>
<p>学科ごとの注意事項③ 【機械工学科（機械工学コース・EK）（先端システムコース・EF）】</p>	<p>機械工学科では、学科内他コース生の受講が許可されている科目があります。履修者に余裕がある場合、他コース科目を他コース履修することができます。希望者は、手続き期間内に手続きを行ってください。機械工学科の授業科目配当表のコース選択欄を参照してください。</p>
<p>教職課程科目</p>	<p>教職課程を履修したいときは、履修登録期間に、登録となります。（詳細は第4章教職課程を参照してください）。 1年次前期は履修できません。</p>

## (2) 専用紙で申請するもの

履修の種類と対象	注意点など
<p>重複履修許可願</p>	<p>履修を希望する科目が、授業時間割上、同曜日の同時限に2科目以上重複している場合、その一方のみ、履修が許可されます（重複受講の禁止）。しかし、例外として重複履修が認められる場合があり、あらかじめ周知されます。希望者は指定の専用紙にて履修申請する必要があります。</p>
<p>東京理工系大学による学術と教育の交流に関する協定に基づく、学生交流（単位互換）のための履修願</p>	<p>東京理工系大学とは、本学、芝浦工業大学、東京都市大学、工学院大学を指します。この四大学間で、平成11年4月より、学生交流（単位互換）の履修制度が実施されています。履修できる科目、履修方法、単位の認定、各判定時の科目の扱い等についての詳細は、掲示でお知らせします。</p>
<p>転学部・編入学・転学科・再入学者等の特別履修願</p>	<p>単位認定の関係上等の理由により、他の学部、学科、上級年次科目履修など、通常外の履修を希望する時は、この申請方法を利用することができます。左記の専用紙に所定の事項を記入し、事前に担当教員の承認印を得た上で、用紙の提出をしてください。提出締切後、工学部・未来科学部事務部で一括して学科長の承認を受けます。許可・不許可については後日掲示により知らせます。</p>
<p>前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願</p>	<p>卒業延期者（3月末時点）が前期末卒業を希望する場合、通年科目を前年度授業に出席し、試験を受け不合格の場合、必修科目・選択科目を問わずこの願を提出し、受理されることにより前期末に評価してもらえることになります。左記の専用紙に必要な事項を明記し、事前に担当教員の承認印を得た上で、工学部・未来科学部事務部へ提出してください。提出締切後、工学部・未来科学部事務部で一括して学科長の承認を受けます。なお詳細は「10.前期末卒業」の欄を参照してください。</p>

※履修登録の方法・申請時期等の詳細や修正点などについては、掲示にて周知します。  
 ※「特別な履修登録」の申請を行う場合には、科目担当教員に予め相談してください。

### 3-5 大学院への進学意思のない学生の本学大学院工学研究科修士課程科目の先取履修制度

(本履修制度は、本学大学院工学研究科の進学希望者のために実施する大学院科目の先取り履修制度とは異なります。同制度については別途、掲示周知します。)

現在、本学大学院工学研究科への進学希望者を対象に「大学院科目の先取り履修制度」を実施しています。同制度では、修得した科目の単位は、大学院工学研究科へ進学した場合、大学院科目として単位認定がされます。

本制度に対し、平成21年度より、本学部教育のアドバンス教育の一環として、学習意欲はあるが大学院に進学意思(希望)のない優秀な4年次生(早期卒業者等を含む)を対象に、本学大学院工学研究科修士課程科目の履修機会を設けることとなりました。

履修を希望する学生は、「大学院への進学意思のない学生の本学大学院工学研究科修士課程科目の先取履修願」用紙に所定の事項を記入し、事前に「自分の所属する学科の学科長印」・「自分の履修を希望する専攻の専攻主任印」を得た上で、工学部・未来科学部事務部へ提出してください。許可・不許可については、後日掲示により知らせます。

#### (1) 本制度の対象者

成績優秀である4年次生(早期卒業及び大学院工学研究科への飛び級希望者の3年次生を含む)成績優秀である者とは、下記の基準の両方を満たした者です。

- ①半期に20単位以上の履修登録を行い90%以上の単位を修得していること。
- ②GPAが3.1以上であること。

※上記の基準は、「3-2 履修制限を超えて履修登録を許可する評価基準」と同じです。

なお、上記の成績基準は、履修対象によって下記の時期の成績をもって判定します。

対象学生	前期履修時の成績判定時期	後期履修時の成績判定時期
4年次生	3年次後期	
3年次生の早期卒業希望者、飛び級希望者	2年次後期	3年次前期

#### (2) 単位の認定時期

本制度で修得した科目は、卒業所要単位数には、算入されません。

但し、本制度利用者で、単位修得者が本学大学院工学研究科へ進学した場合の単位認定については、「大学院進学希望者に対する大学院科目の先取り履修」制度に準じて運用(大学院科目として単位認定)します。

### (3) 成績の通知並びに修了書

本制度で履修科目が合格となった場合は、当該科目の「修了書（科目名・単位数・評価を記載）」を1度のみ発行します。

※成績通知・成績証明書には、在学中・卒業後も修了科目について記載されません。

(4) 本履修制度による履修は、大学院工学研究科の履修状況により、履修科目数の制限、各科目への履修者数制限等が設けられる場合があります。その場合は、掲示により知らせます。

## 4 学力考査

科目の履修状況を評価し、単位を認定するための材料として学力考査がおこなわれます。学力考査は、筆記学力考査（学期末・中間・毎回の授業内など）・レポート・平常点の評価などの方法でおこなわれます。いずれの形態で学力考査を実施するかについては、「学力考査実施要領」にて案内します。「学力考査実施要領」は掲示にて周知します。

### 4-1 学力考査

#### (1) 受験資格

次の4つの条件を原則すべて満たしていなければなりません。但し、休学期間中は学力考査を受けることはできません。

- ①その科目の履修登録を完了していること。
- ②その科目に常時出席していること。
- ③その学期までの学費を納入していること。
- ④通年科目で、前・後期の2回学力考査がおこなわれる科目について後期学力考査を受験するには、前期学力考査を受験していること。

#### (2) 実施方法等

科目担当教員の指定する方法・日程・時限で実施します。

#### (3) 学力考査受験上の心得

##### ①学生証の呈示

教室では、必ず学生証を常に机の上、通路側の見やすい場所に呈示してください。万一日携帯していないときは、2号館3階にある自動証明書発行機より証明書〔仮受験票〕を出力してください。（仮受験票の発行を受ける場合は有料（1,000円）となります。）

##### ②遅刻・退出

学力考査時の遅刻に関する取扱いについては、別途案内する掲示を確認してください。

学力考査時の退出については、開始 40 分後から終了 10 分前まで可能です。

③学籍番号・氏名の記入

答案用紙に学年・学科・学籍番号・氏名を必ず記入してください。記入のない答案は無効となります。

④監督者の指示

学力考査実施時間中は、監督者が一切の権限を有します。監督者の指示に従わない者、または私語など受験態度不良の者には退室を命じることがあります。また、学力考査時間中、筆記用具・消ゴムなどの貸借は監督者の許可がなければできません。

⑤不正行為

カンニングなど不正行為をした場合、退学・停学・訓告などの懲戒処分になるとともに、当該科目の属する学力考査の全科目が無効となります。

「当該科目の属する」の範囲には、学力考査実施要領発表後に実施されるレポート科目等も含まれます。

⑥受験棄権

時間途中で受験を中止する場合でも、答案用紙に学年・学科・学籍番号・氏名を記入して提出してください（受験した科目の答案用紙は、持ち帰る事はできません。誤って持ち帰った場合でも、不正行為とみなされる場合がありますので注意してください。）。

**(4) 学力考査予備日**

通常の授業実施時限とは異なる日程で、学力考査を実施する日を学力考査予備日と呼びます。同日程で学力考査を実施する科目は、学力考査実施要領にて発表します。

①受験資格のほか、各種の条件ならびに遵守すべき事項は、授業中に実施する学力考査に準じます。但し、科目担当教員が指定する条件等がある場合は、それに従ってください。

②時間割・試験室などについては、掲示で発表します。学力考査予備日に実施する学力考査は、通常の授業時間とは異なりますので注意してください。

[学力考査予備日の時限と時間] (各 80 分)

時限	1	2	3	4	5	6	7
時間	9:30 } 10:50	11:10 } 12:30	13:30 } 14:50	15:10 } 16:30	16:45 } 18:05	18:20 } 19:40	19:55 } 21:15

昼間学部は、原則 1 時限から 4 時限に学力考査を実施します。

なお、学生の履修科目によっては、5 時限以降に学力考査を実施する場合があります。

**4-2 追試験**

急病など真に止むを得ない理由で学力考査を欠席した場合は、追試験がおこなわれることがあります。追試験を実施するかどうかは科目担当教員に任されており、追試験願を提出しても追試験が実施されるとは限りません。できる限り指定された日の学力考査を受けてください。追試験を希望する場合は所定の手続きが必要になります。

### (1) 不正行為

カンニングなど不正行為をした場合、退学・停学・訓告などの懲戒処分になるとともに、当該学力考査の属する追試験及び学力考査（予備日実施も含む）の全科目が無効となります。

「当該学力考査の属する」の範囲には、学力考査実施要領発表後に実施される学力考査科目・レポート科目なども含まれます。

### (2) 追試験願の提出が認められる理由

次の4つの場合のみ、証明書類を添付して追試験願を提出することができます。

- ①本人の病気のため受験が全く不可能な場合。（医師の診断書）
- ②2親等以内の親族の危篤・死亡の場合。（証明する書類）
- ③交通機関停止等により登校が不可能な場合。（遅延証明書）
- ④その他、本人の責任でない真に止むを得ない事情がある場合。（理由書）

学力考査時間割の見間違い、寝坊などは止むを得ない理由とは認められません。

但し、就職試験のため学力考査を受けられなかった4年次生は、学科長に相談してください。

### (3) 手続き

学力考査の受験資格（前記）を満たしており、上記の追試験願を提出できる理由に該当する者は、事務部が指定する提出期日までに、上記書面を添えた欠席届（追試験願）を工学部・未来科学部事務部へ提出してください。追試験の受付スケジュール・追試験の実施の有無、いつ実施するか等は後日、掲示でお知らせします。申請した科目の追試験が実施されることになった場合は、受験手続き（受験1科目につき500円必要）を行います。

## 4-3 中間考査

学期の途中で担当教員が随時おこなう学力考査です。

### (1) 不正行為

カンニングなど不正行為をした場合、退学・停学・訓告などの懲戒処分になるとともに、当該科目が無効となります。

## 4-4 提出物の期限

科目担当教員や事務部から学生に提出物（履修届・レポート・製図、その他）を求めるときは、必ず「期限（締切日と締切時間）」と「提出場所（方法）」が定められます。期限を過ぎた提出物は一切受けません。必ず、締切日・締切時間・提出場所（方法）を確認し、その条件を遵守してください。

実験レポートは実験室が管理していますので、それらに関する問い合わせ等は直接実験室に行ってください。

# 5 成 績

担当教員が採点し、60点以上の評点を得たとき合格となり、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを大学側から見て「単位認定」、学生側から見て「単位修得（取得）」といいます。

単位認定は、原則としてその授業科目の履修が終わる配当期の終了時点に行われます。一旦単位を修得（取得）した授業科目は、履修の終了が認定されたことになるので、再度の履修をすることはできません。

## 5-1 成績評価基準

成績評価基準		
評価	評点	参考
S	90点～100点	講義・実験・実習内容を十分に理解し、自在に応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
A	80点～89点	講義・実験・実習内容を理解し、応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
B	70点～79点	講義・実験・実習内容を知識として身につけ、部分的ではあるが応用できる水準にある。しかし、より高度な内容に進むためには、自己学習をしておくことが望ましい。
C	60点～69点	シラバスに記載されている達成目標の最低水準に達している。しかし、習得した知識を応用し、より高度な内容に進むためには、十分な自己学習を要する。
D	60点未満	シラバスに記載の達成目標を満たしていない。
—	放棄	学習を放棄したとみなされた。

## 5-2 評点と評価

評点は、下記の評価におきかえられ UNIPA の成績通知画面・成績証明書などに表されます。なお、評点の通知は行ないません。

評価		評点・摘要
成績証明書用	成績通知用	
S	S	90～100点 80～89点 70～79点 60～69点 } 合格（単位修得）
A	A	
B	B	
C	C	
R	D	0～59点 不合格（単位未修得）
	—	放棄（下記の注を参照）
	*	履修中（現在履修中である状態）
	R	認定（他大学・短期大学等の単位を認定した場合）

（注）通常の授業への出席状態が悪く担当教員が履修を途中で放棄したと判断した場合などは、「—」放棄となる。

### 5-3 成績の通知

前年度末までの成績の通知は3月に、前期末までの成績通知は9月に行います。学生アドバイザーや各学科長から成績・履修相談を同時に行う場合もあります。

なお、学期の途中で担当教員から採点報告があっても、個々の発表は行いません。

### 5-4 成績順位

総合的成績評価において、GPA (Grade Point Average) を基本とします。

$$\text{GPA} = (\text{単位加重 GP の総和}) \div (\text{履修登録単位の総和})$$

※単位加重 GP の総和＝

(S 評価の単位数) × 4 + (A 評価の単位数) × 3 + (B 評価の単位数) × 2 + (C 評価の単位数) × 1

※単位加重 GP (Grade Point) とは、取得した各科目の評価 (S・A・B・C・D) に下記の各科目の評価を指数化するグレートポイントを掛けた数値です。

ポイント	評価	評点 (100 点法)
4	S	90 ~ 100
3	A	80 ~ 89
2	B	70 ~ 79
1	C	60 ~ 69
0	D	0 ~ 59
	—	放 棄

- ・ 総和には自由科目を含まない。
- ・ 履修登録単位の総和に、履修中の単位は含まれない。
- ・ 履修登録単位の総和は、成績通知に記載の科目を対象とする。
- ・ GPA の値は小数点第 4 位を四捨五入した値となります。
- ・ 用途

学部内における判定等 (早期卒業、履修上限を超えての履修登録を許可する評価基準、大学院への進学意思のない学生の本学大学院工学研究科修士課程科目の先取り履修の許可基準、その他)

### 5-5 単位認定

#### (1) 入学前に修得した単位の認定

##### ①編入学・転学部・転学科の場合

該当者が、大学・短期大学・高等専門学校の専攻科で修得した成績を、本学部で修得したものとして認定の対象科目とすることができ (高等専門学校での科目は、原則として 4・5 年次の科目に限る)、単位は進級・卒業条件へ算入することができます。

単位を本学部における単位として認定を希望するときは、掲示により指定された期日までに、単位認定願を工学部・未来科学部事務部（教務担当）へ提出してください。

その中から、本学部所定の基準に対応する科目について単位認定をおこないます。単位認定科目の評価は、編入学者に対して「R」、転学部・転学科者に対しては「S・A・B・C」で表示されます。但し、認定「R」で表示された科目は、教育職員免許状を取得しようとするとき「教科に関する科目」の単位には20単位までしか算入されません（何ら教職課程認定を受けていない大学・短期大学から編入学した学生の場合）ので、認定を希望しない者はその旨を工学部・未来科学部事務部（教務担当）へ申し出てください。

## ②新入学者の既取得単位の認定

大学または短期大学において本学部に入學する前に修得した授業科目の単位（科目等履修生によって修得した単位を含む）のうち教授会が教育上有益と認めたものは、入學した後の本学部において修得したのものとして（編入学・転入学等の場合を除く）60単位を限度に単位を認定されることがあります。

既取得単位認定希望者は、掲示により案内する指定期日までに、前に在學した大学または短期大学の成績証明書及び当該科目の講義要目（シラバス）を添付して工学部・未来科学部事務部（教務担当）へ願い出てください。

# 6 再履修

履修した授業科目の単位を修得できなかったときは、2年次以上からその科目の履修をもう一度ははじめからやり直す（再履修）ことになります。

その際、次の点に留意してください。

- ①必修科目（択一必修科目、コース（プログラム）必修科目を含む）の単位を修得できなかったときは、必ず再履修する必要があります。
- ②選択科目の単位を修得できなかったときに再履修するかどうかは、各自の意志にまかされますが、卒業に必要な単位数は確保するよう再履修科目を決めてください。
- ③再履修科目の配当条件に変更があったときは、別途、周知される再履修方法などを参照し、単位未修得科目に対応する授業科目を誤りなく再履修してください。
- ④再履修する授業科目の単位数が変更になった場合でも、再履修の結果合格したときは自分のカリキュラム年度配当科目の単位数が与えられます。
- ⑤再履修科目の担当教員が前年度と変更になった場合は、当該年度担当教員のもとで再履修してください。
- ⑥再履修科目と自分の学年次配当科目とが授業時間割上重複した場合、両科目を履修することはできません（重複受講の禁止）。（本章 3-3 履修登録を参照）
- ⑦再履修科目の履修登録・学力考査などについては、通常の履修科目の場合と同じです。

## 7 卒業までの学修

大学は単位制ではありますが、特に理工学系大学では、学問の性質上基礎から応用へと積み重ねて履修していくことが必要です。そこで本学部では、授業科目を順序だてて履修できるように各年次に配当し、各学年次生がその中から履修できるようになっています。

したがって、下級年次で成績不良のまま上級年次へ進み専門的科目を履修する必要が生じた場合、教育上不都合が生じます。そこで本学部では、学年末までの単位修得状況を考慮して上級年次へ進級するための条件を定めており、この条件を満たさないときは、もとの学年次に留年するという進級制度をとっています。

自己の進路と学習の進め方については、学科で実施する履修のガイダンスに必ず出席し、その内容を十分理解して学習に励み間違いなく所期の目標を達成するようにしてください。また、高等学校までと異なり、自己責任と自己管理が一層重要になってきていることを自覚し学修してください。

## 8 進級と留年

原則以下の条件を満たした場合、上級学年次へ進学することになります。

- ①必要な学費及びその他の費用を納入している事。
- ②同一学年に合算して12ヶ月以上在学すること。ただし、休学期間は在学期間に含まない。
- ③上級年次に進学するための条件がある場合(本章8-1「1年次から2年次への進級条件」、8-3「3年次から4年次への進級条件」を参照)は、その条件を満たしていること。

※3月の判定時に休学中の者も、①、②、③を満たしていれば上級年次へ進級する事になります。

### 8-1 1年次から2年次への進級条件

#### (全学科共通)

必要な学費及びその他の費用を納入しており、休学期間を除き1年次生に合算して12ヶ月以上在学している者(判定時に休学中の者も含む)を対象に1年次学年末に進級判定が行われます。

1年次から2年次に進級するためには、1年次学年末において、次の条件を満たす必要があります。

#### (1) 進級条件

1年次終了時に、自由科目を除く修得単位数の合計が24単位以上であり、学科の定める科目の修得条件を満たしていることを条件とする。

【学科の定める科目の修得条件（要修得必修科目数）】

学科名	EE 科		ES 科	EM 科		EC 科
	EJ コース	EH コース		EK コース	EF コース	
1 年次までの必修 配当科目数	5 科目	4 科目	12 科目	6 科目	5 科目	8 科目
要修得必修科目数	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	5 科目 <sup>※1</sup>

※1. ワークショップ I を含む、5 科目

上記の進級条件を満たした者は、2 年次に進級します。

3 年次から 4 年次への進級条件や卒業所要単位数も考慮して、履修登録を行い、十分な単位数を修得するようにしてください。

(2) 留年

進級判定の結果、1 年次に留年となった場合、再び 1 年次をやり直すこととなります。修得できなかった科目について再履修を行い、年度末に再度進級判定を受けることとなります。

なお、休学による場合を除き、同一学年に通算して 4 年の在学をこえてなお進級できない者は、除籍となります。(学則)

8-2 2 年次から 3 年次への進級

2 年次から 3 年次への成績による進級条件はありません。(ただし、前記の学籍及び学費の条件を満たす必要があります。)

成績による進級条件がない場合であっても、後記の 3 年次から 4 年次への進級条件を満たすよう履修計画をたて、確実に学修を進める必要があります。

8-3 3 年次から 4 年次への進級条件

(全学科共通)

必要な学費及びその他の費用を納入しており、休学期間を除き 3 年次生に合算して 12 ヶ月以上在学している者（判定時に休学中の者も含む）を対象に 3 年次学年末に進級判定が行なわれます。

3 年次から 4 年次に進級するためには、3 年次学年末において、次の進級条件を満たす必要があります。

(1) 進級条件

自由科目を除く修得単位数の合計が 104 単位（人間科学科目 10 単位、英語科目 4 単位を含む）以上であり、学科の定める科目の修得条件を満たしていることを条件とする。

【学科の定める科目の修得条件（要修得必修科目数）】

学科名	EE 科		ES 科	EM 科		EC 科
	EJ コース	EH コース		EK コース	EF コース	
3年次までの必修 配当科目数	16 科目	13 科目	24 科目	21 科目	21 科目	15 科目
要修得必修科目数	13 科目	11 科目	19 科目	18 科目	18 科目	13 科目

※ EJ コースにおける JABEE プログラム必修科目の「技術者倫理」は、「要修得必修科目」には加算されません。

(2) 留年

進級判定の結果、3年次に留年となった場合、再び3年次をやり直すこととなります。修得できなかった科目について再履修を行い、年度末に再度進級判定を受けることとなります。

なお、休学による場合を除き、同一学年に通算して4年の在学をこえてなお進級できない者は、除籍となります。(学則)

## 9 卒 業

休学期間を除き4年次に合算して12ヶ月以上在籍している者で、年度末判定時に休学していない4年次生を対象に卒業判定が行われます。本学部を卒業するためには、次のすべての条件をみとすことが必要です。

### 9-1 卒業条件

- ①卒業するために必要な単位数（卒業所要単位数）を修得していること。
- ②自分の所属する学科に配当されている必修科目（コース（プログラム）必修科目がある学科はコース（プログラム）必修も含む）の単位の全部を修得していること。
- ③合計4年以上（8年以内）在学していること。
- ④卒業までに必要な学費及びその他の費用の全額を納入していること。
- ⑤卒業判定時に休学していないこと。

### 9-2 区分別卒業所要単位数

- (1) 電気電子工学科（電子光情報コース）、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科用  
【区分別卒業所要単位数】

区分		単位数	備考
共通教育科目	人間科学科目	16 単位	(技術者教養科目2単位を含む)
	英語科目	6 単位	
専門教育科目	基礎・共通科目 専門科目	90 単位	
任意に選択し修得した科目		12 単位	
合 計		124 単位	

※自由科目は上記「卒業所要単位」に含まれません。

※卒業所要単位の中に、「任意に選択し修得した科目」を設けてあります。この科目区分は、「学生の個性に併せて選択した科目」が選択できる様に位置づけています。

※大学院科目の先取り履修制度で修得した科目は、卒業所要単位数に算入されません。

※人間科学科目は、「所要単位」のうち、技術者教養科目2単位を含む。

(択一必修。複数科目を修得した場合は、人間科学科目区分の卒業所要単位として認定されます。)

※任意に選択し修得した科目とは、以下の科目を指します。

- ①「任意に選択し修得した科目」区分以外の上記の表の区分において、卒業所要単位を超えて修得した単位
- ②「任意に選択し修得した科目」となる単位  
他学部他学科履修で修得した単位（自由科目を除く）  
東京理工系大学による学生交流（単位互換）の履修制度を利用し、修得した単位

## (2) 電気電子工学科（電気電子システムコース）

### 【区分別卒業所要単位数】

区分		区分単位数	学修教育目標に対応する科目区分	必要最低単位数
共通教育科目	人間科学科目	16 単位	(A) 人間科学科目	16 単位
	英語科目	6 単位	(B) 技術者教養 (技術者倫理)	2 単位
専門教育科目	基礎・共通科目 専門科目	102 単位 (C,D1,D2,E,Fの 科目の合計単位数 が102単位必要)	(C) 工学基礎科目	32 単位
			(D1) 専門科目	33 単位
			(D2) 実験科目	8 単位
			(E) 設計・開発・研究科目	8 単位
			(F) コミュニケーション科目	5 単位
任意に選択し修得した科目		—		
合 計		124 単位		

※「自由科目」は、「卒業所要単位」には含まれません。

※ 1年次入学生と編入学生では、適用されるプログラムが異なります。

①電気電子専修プログラム (JABEE プログラム：1年次に正規入学した学生)

①の対象者は、上表の「学修教育目標に対応する科目区分」の「必要最低単位数」を満たす必要があります。

②電気電子総合プログラム (総合プログラム：企業委託学生、2年次以上への編入学生など)

②の電気電子総合プログラム (編入生等対象) は、「区分単位数」条件を満たせばよい。

詳細は、「工学部履修モデル電気電子工学科プログラム案内」を参照してください。

### 9-3 卒業研究着手条件

進級条件を満足し4年次生に進級した学生は卒業研究の着手条件を満たしたことになります (8進級参照)。

### 9-4 卒業見込証明書

進級条件を満たし、4年次に進んだ学生には卒業見込証明書を発行します。

卒業見込証明書は4月上旬より発行します。

卒業見込証明書発行日については、掲示にて周知します。

※休学中は卒業見込証明書が発行されません。必要に応じ、学科に相談してください。

### 9-5 学位記

本学部を卒業すると、学士 (工学) の学位が授与され、卒業時に学位記を授与します。本学の場合、学位記が卒業証書を兼ねますので、いわゆる卒業証書と称するものは授与しません。一度発行した学位記は再発行しませんので、大切に保管してください。

### 9-6 3年間での卒業 (早期卒業)

大学院への進学を前提としているきわめて成績優秀な学生は、以下の条件により3年間の在学期間で卒業することが出来ます。希望する場合は、学科長に相談してください。

3年間の在学期間で卒業するための条件は以下の通りです。

①本人が3年生終了時に卒業することを希望していること

②在学期間が3年の学生であること

③卒業要件および成績基準

・3年次までに各学科に配当された必修科目の単位をすべて3年次終了時まで修得しているとともに、各学科が定めた早期卒業のための卒業要件を満たし、卒業所要単位124単位以上を修得済みであること。

・GPAが3.4以上であること。

・上記の対象となる科目・単位は、工学部で履修し、工学部の授業を受講し、評価された科目・単位のみとする。

④学科長および学部長が早期卒業に相応しいと判断したもの

### ●各学科が特に定めた早期卒業のための卒業要件

- (1) 2年次終了時に85単位以上を修得し、GPAの数値が3.4以上あり、早期卒業を希望する学生は、3年次において卒業研究を履修し、その単位を修得しなければならない。卒業研究の履修にあたっては、学科長の指示に従うものとする。ただし、対象となる科目・単位は、工学部で履修し、工学部の授業を受講し、評価された科目・単位のみとする。
- (2) 3年前期終了時に、学科長が卒業研究の履修の継続を認めた者。
- (3) 4年次配当の卒業研究以外の必修科目の単位修得については、次のとおりとする。  
 EE科 (EJ・EH) …全て修得すること。  
 EC科 …修得しなくとも良い。  
 ES科、EM科 (EK・EF) は、卒業研究以外の必修科目は配当されていません。

### ●その他

各学科において、3年前期終了時に学科長が卒業研究の継続を認められないと判断した場合は、卒業研究の履修を中止するか、引き続き履修を認めた場合でも単位認定は4年次に行う。

## 10 前期末卒業（卒業条件を満たさず卒業延期になった者対象）

### 10-1 前期末卒業の条件

- (1) 4年次に合算して12か月以上在学するものを対象とする。ただし、12か月以上の在学には、休学期間を在学期間に含まない。
- (2) 前記の条件を満たした者を対象として前期末卒業判定を実施する。判定時に休学中の者は対象としない。卒業所要単位数など所定の卒業条件を満たしたときは、前期末卒業（9月10日付）となる。

（所定の卒業条件）

卒業条件は、入学した年度に学生に提示している卒業条件を適用する。

### 10-2 前期末卒業の希望確認（意志確認）の手続きについて

- (1) 年度末卒業判定が行なわれ卒業延期者が確定した3月の成績通知書配布時に、学科長または学生アドバイザーから卒業延期者に対し「前期末卒業制度」が説明されます。卒業延期者は、UNIPAの【個人情報】に表示されている連絡先に誤りがないか確認してください（後日、前期末卒業に関する連絡を学科から行う場合に使用するため）。

(2) 9月上旬の成績通知書配布時に、「前期末卒業の対象者（前記の卒業条件を満たした者）に対し、前期末卒業の希望確認（意志確認）を行います。卒業時期の確認手続きは以下によります。

**（卒業時期の確認手続） 時期：9月上旬**

対象学生への卒業時期の意志確認	前期成績が確定後、前期末卒業判定が実施され、判定結果が学科長へ通知されます。その結果を受け、学科長又は学生アドバイザーが、前期末卒業条件を満たした対象者全員に、前期末卒業（9月10日付卒業）とするか、または、翌年3月卒業とするかの卒業時期の希望を確認します。
卒業時期の確定	<p>対象学生への意志確認</p> <p>①対象学生の意志確認ができ学生が前期末卒業を希望する場合、または、対象学生の意志確認が出来ない（連絡がつかない）場合 ⇒9月10日付で卒業となります。</p> <p>②対象学生より「翌年3月に卒業したい」旨の申請があった場合、定められた期間内に「翌年3月に卒業を希望する」旨の申請書（対象学生及び保証人の署名・捺印が必要）を学部長宛に提出する事により、翌年3月に卒業時期が変更となります。</p> <p>※後期の在籍となることから学費の支払い義務が発生します。保証人と充分相談し、希望を決定してください。</p>

**10-3 前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願**

前年度卒業延期者が通年科目を再履修して前期末卒業を希望する場合は、その科目の履修届を提出するだけでなく、「前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願」を必ず提出しなければなりません。（用紙は工学部・未来科学部事務部にあります。）

**（手続き）**

卒業延期者のうち、通年科目を前年度までに少なくとも1年間履修し単位未修得の者で、前期末卒業の可能性があると本人が判断し前期末卒業を希望する者は、前期履修登録期間に「前期末卒業のための通年科目前期末評価実施願」を1科目につき1部ずつ提出してください。

①通年科目であれば必修科目・選択科目を問いません。

②後期科目はこの手続きの対象外です。

※修得できた科目の単位は、前期末卒業できた場合、又、前期末卒業できずに翌年3月に卒業する場合にも、修得科目として、卒業所要単位数に算入されます。